# 水城（みさじろ）遺跡

1999年3月
長野県飯田市教育委員会

# 水城（みさじろ）遺跡

1999年3月
長野県飯田市教育委員会

# 序

飯田市松尾地区は飯田市街地の南東部、天竜川河岸から段丘面までの広い範囲を占めています。川沿いの平坦地が多く優良な耕地が広がっています。また、古来交通の要衝に位置しており、下伊那最古の古墳といわれる代田山狐塚古墳等の埋蔵文化財をはじめ多くの文化財を残しています。これらは私たちの地域社会や文化を形作ってきた様々な証であり、できる限り現状のままで後世に伝えることが私たちの責務でしょう。けれども、同時に私たちはよりよい社会や生活を求めていく権利を持っています。ですから、日常生活の様々な場面で文化財の保護と開発という相容れない事態に直面することが多くなっています。こうした場合、発掘調査を実施して記録にとどめることもやむを得ないものといえましょう。

松尾水城地区は、老朽化した地区の集会施設を新築することを計画しました。地域コミュニティー施設の果たす役割を考慮すれば、必要な事業といえます。しかし、当該事業地には水城遺跡が所在し、工事実施によって壊されてしまうおそれがでてきました。そこで、次善の策ではありますが、工事実施に先立って緊急発掘調査を実施して、記録保存を図ることになりました。

調査成果は本文で述べられているとおりでありますが、調査で得られました様々な知見は、これからの地域の歴史を知っていく上で貴重な資料となると確信しています。

最後になりましたが、調査に当たって多大なご理解とご協力をいただいた地元水城地区と隣接地の方々、現地作業及び整理作業に従事された作業協力員の皆さんほか関係各位に深く感謝を申し上げますとともに、ここに発掘調査報告書が刊行できますことに対して厚くお礼申し上げます。

平成11年３月

飯田市教育委員会

教育長　小　林　恭之助

# 例　　言

1．本書は飯田市が実施した松尾水城地区コミュニティー消防センター建設に先立って実施された、飯田市松尾「水城遺跡」の緊急発掘調査報告書である。

2．調査は、飯田市教育委員会の直営事業として実施した。

3．調査は、平成９年度に現場作業、平成10年度に整理作業及び報告書作成作業を行った。

4．調査実施に当たり、基準点測量・写真測量・空中写真撮影を株式会社ジャステックに委託した。

5．発掘作業・整理作業に当たり、ＭＳＪを一貫して用いた。なお、今次調査区の中心地番である3575を略号に続けて付した。

6．本報告書の記載順は竪穴住居址を優先した。遺構図は本文とあわせ挿図とし、遺物及び写真図版は本文末に一括した。

7．土層の色調については、『新版標準土色帖』の表示に基づいて示した。

8．本書に関わる図面の整理は、調査員・整理作業員の協力により福澤好晃が行った。

10. 本書の執筆と編集は調査員の協議により福澤好晃が行った。

11. 本書の遺構図にの中に記した数字は、検出面・床面からそれぞれの穴の深さ（単位cm）を表している。

12. 本書に関連した出土遺物及び図面写真類は飯田市教育委員会が管理し、飯田市考古資料館に保管している。

# 目　次

本文目次

序
例　言
目　次
Ⅰ　経過 …… 1
1．調査に至るまでの経過 …… 1
2．調査の経過 …… 1
3．調査組織 …… 1
Ⅱ　遺跡の環境 …… 3
1．自然環境 …… 3
2．歴史環境 …… 6
Ⅲ　調査結果 …… 9
1．調査の方法と概要 …… 9
2．遺構と遺物 …… 9
1）古墳時代 …… 9
（1）墳丘墓 …… 9
①ＳＭ０１ …… 9
2）平安時代 …… 11
（1）竪穴住居址 …… 11
①ＳＢ０１ …… 11
②ＳＢ０９ …… 12
3）時期不明 …… 13
（1）竪穴住居址 …… 13
①ＳＢ０２ …… 13
②ＳＢ０３ …… 13
③ＳＢ０４ …… 14
④ＳＢ０５ …… 15
⑤ＳＢ０６ …… 15
⑥ＳＢ０７ …… 16
⑦ＳＢ０８ …… 16
（2）竪穴状遺構 …… 18
①ＳＢ１０ …… 18
（3）溝址 …… 18
①ＳＤ０１ …… 18
（4）土坑 …… 19
（5）遺構外出土遺物 …… 20
Ⅳ　ま　と　め …… 21
・水佐代１号古墳について …… 21
・ＳＭ０１について（墳丘墓）…… 21
・平安時代集落について …… 21
引用・参考文献 …… 22
報告書抄録 …… 48

## 図版目次


第１図　調査遺跡及び周辺遺跡位置図 …… 4
第２図　調査位置図及び周辺地図 …… 5
第３図　基準メッシュ図区画調査位置図 … 7
第４図　遺構全体図 …… 8
第５図　ＳＭ０１ …… 10
第６図　ＳＢ０１ …… 11
第７図　ＳＢ０９ …… 12
第８図　ＳＢ０２ …… 13
第９図　ＳＢ０３ …… 13
第10図　ＳＢ０４ …… 14
第11図　ＳＢ０５ …… 15
第12図　ＳＢ０６ …… 16
第13図　ＳＢ０７ …… 16
第14図　ＳＢ０８ …… 16
第15図　ＳＢ１０ …… 18
第16図　ＳＤ０１ …… 18
第17図　ＳＫ０１・０２・０３
　　０５・０６ …… 19
第18図　出土遺物　１～５　ＳＭ０１
　　６～８　ＳＢ０１ …… 24
第19図　出土遺物　１～２　ＳＢ０１
　　３～７　ＳＢ０９ …… 25
第20図　ＳＢ０９　出土遺物 …… 26
第21図　ＳＢ０９　出土遺物 …… 27
第22図　ＳＢ０９　出土遺物 …… 28
第23図　遺構外出土遺物 …… 29
第24図　遺構外出土遺物 …… 30


## 写真図版目次


図版１　水城遺跡遠景・調査区全景 …… 32
図版２　ＳＭ０１・ＳＢ０１ …… 33
図版３　ＳＢ０１　遺物出土状態
　　ＳＢ０９・ＳＢ０９　カマド …… 34
図版４　ＳＢ０９　遺物出土状態
　　ＳＢ０２・ＳＢ０５ …… 35
図版５　ＳＢ０７・ＳＢ０８・ＳＫ０１ … 36
図版６　ＳＫ０２・ＳＫ０３・調査風景 … 37
図版７　調査風景 …… 38
図版８　委託基準点測量作業・委託空中写真撮影
　　重機表土剥作業 …… 39
図版９　ＳＭ０１　出土遺物 …… 40
図版10　ＳＢ０１　出土遺物 …… 41
図版11　ＳＢ０９　出土遺物 …… 42
図版12　ＳＢ０９　出土遺物 …… 43
図版13　ＳＢ０９　出土遺物 …… 44
図版14　ＳＢ０９　出土遺物 …… 45
図版15　遺物外出土遺物 …… 46
図版16　遺物外出土遺物 …… 47

# Ⅰ　経　　過

## 1．調査に至るまでの経過

平成９年３月１日付、飯総交防発第345号にて、飯田市長 田中秀典より飯田市松尾水城地区コミュニティー消防センター建設に係る埋蔵文化財発掘調査について、文化財保護法第57条により通知が提出された。当該地は埋蔵文化財包蔵地水城遺跡の一画に位置し、弥生時代から中世の集落および隣接する水佐代獅子塚古墳周溝の存在が予想される地である。

そこで、双方協議の結果、発掘調査をおこなって記録保存の措置を講ずることとした。

## 2．調査の経過

関係者による諸協議を受けて、平成９年６月４日に現地での発掘調査に着手した。

まず、重機により表土剥ぎ作業をおこない、基準点設置作業を実施した後、作業員による遺構検出作業を開始した。そして、竪穴住居址・溝等を検出し、掘り下げて精査し、写真撮影をおこない、空中写真撮影を（株）ジャステックに委託して作業をおこなった。

遺構については、測量作業を順次おこない、平成９年８月11日現地での作業を終了した。

その後、飯田市考古資料館において現地で記録された図面・写真類の整理作業、出土遺物の水洗・接合・復元作業、実測・写真撮影作業、遺構図の作成・トレース、版組み等を行ない、報告書作成作業にあたった。

## 3．調査組織

調査担当者　福澤好晃

調査員　佐々木嘉和　吉川　豊　山下誠一　馬場保之　吉川金利　伊藤尚志　下平博行

現場作業員　新井幸子　伊東裕子　木下貞子　木下義男　木下力弥　佐々木阜　田中博人
竹本常子　中平隆雄　仲村　信　中山敏子　原田四郎八　牧内　修

整理作業員　新井ゆり子　池田幸子　金井照子　金子祐子　唐沢古千代　木下早苗　木下玲子
小池千津子　小平晴美　小平まなみ　小林千枝　小林理恵　斉藤徳子　佐々木真奈美
佐々木美千枝　佐藤知代子　関島真由美　高木純子　高橋恭子　田中　薫
筒井千恵子　中沢温子　中田　恵　中平けい子　林勢紀子　林ひとみ　原　昭子
平栗陽子　福澤育子　福澤幸子　牧内喜久子　牧内八代　松島直美　松本恭子
三浦厚子　宮内真理子　森藤美和子　森山律子　吉川悦子　吉川紀美子

事務局

飯田市教育委員会博物館課

小畑伊之助（博物館課長）

小林　正春（博物館課　埋蔵文化財係長）

吉川　　豊（　〃　　埋蔵文化財係）

山下　誠一（　〃　　〃　　）

馬場　保之（　〃　　〃　　）

吉川　金利（　〃　　〃　　）

福澤　好晃（　〃　　〃　　）

伊藤　尚志（　〃　　〃　　）

下平　博之（　〃　　〃　　）

牧内　　功（　〃　　庶務係）

# Ⅱ　遺跡の環境

## 1．自然環境

飯田市松尾地区は、飯田市街地の南西約２～５kmに位置し、飯田市全域のほぼ中央部にあたる。

東は天竜川を挟み下久堅地区に、北は飯田松川で上郷地区と境を接する。南は毛賀沢川を挟んで竜丘地区となり、西は河岸段丘上で鼎地区と接する。

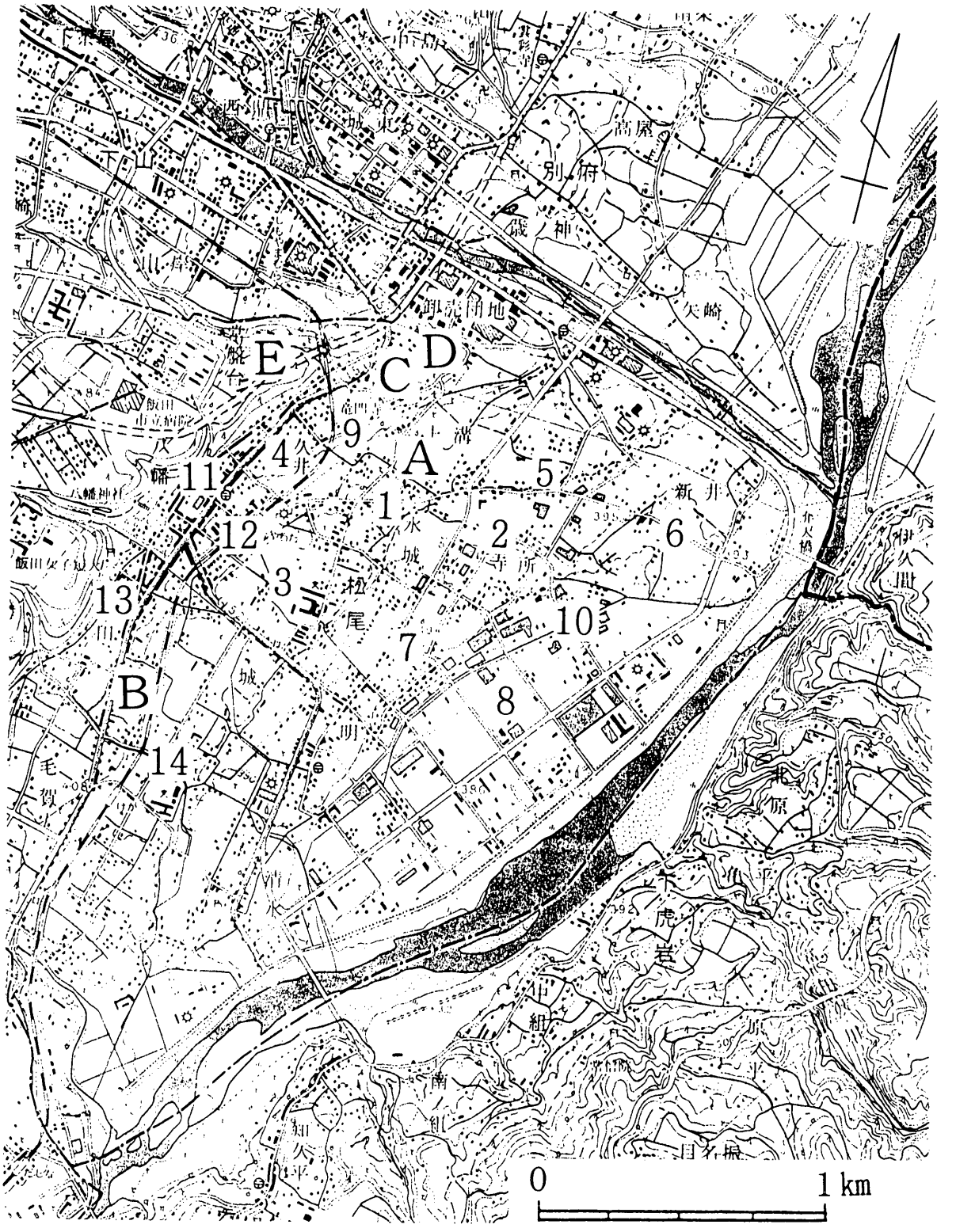
伊那谷の基本的な地形は、天竜川の流れに沿ったほぼ南北方向への断層段丘地形を特徴としている。

松尾地区は、この天竜川が東端を南流し、その氾濫源を含め５～６の段丘面で形成されている。それらは、高位と低位とに大別でき、その境は鳩が峯八幡宮を中心とした段丘崖である。この段丘崖も小河川によりいくつかにわかれ、それぞれに名前が付けられている。北より上の城・茶柄山・妙見山・八幡原・代田山・御射山原・松尾城跡と南へつながっている。

高位段丘の標高は、480m前後で、ローム層に覆われた台地である。低位の段丘は、前述の段丘崖下から天竜川までの間の松尾地区の大半である。この中に５～６面の小段丘があり、それぞれ２～５ｍの比高差がある。標高は380～430m程度である。それぞれの段丘面の広さは一様ではないが、いずれも南北方向の段丘崖が確認でき、段丘崖直下には湿地が確認できる場合が多い。しかし、大段丘崖からの小河川により、小扇状地が形成されている場合があり、その部分では段丘崖の把握は困難となっている。また、これらの河川や段丘崖の湧き水により、低位段丘は全体に水利は良い。

気候面でみれば、伊那谷は比較的温和であり、松尾地区は飯田市の中でもさらに温暖である。平均気温は13℃に近く、降水量も年間1,600mm程度である。低位段丘は、後ろに段丘崖を背負っているため、冬の北風から守られる格好になっていることも温暖な要因の一つにあげられる。

水城遺跡は、低位段丘の中段に位置しており、段丘崖に平行して南北に細長く伸びている。段丘縁から連続する微高地と、上位段丘崖下に広がる湿地よりなっている。




A　水佐代獅子塚古墳　　B　代田獅子塚古墳　　C　上溝天神塚古墳

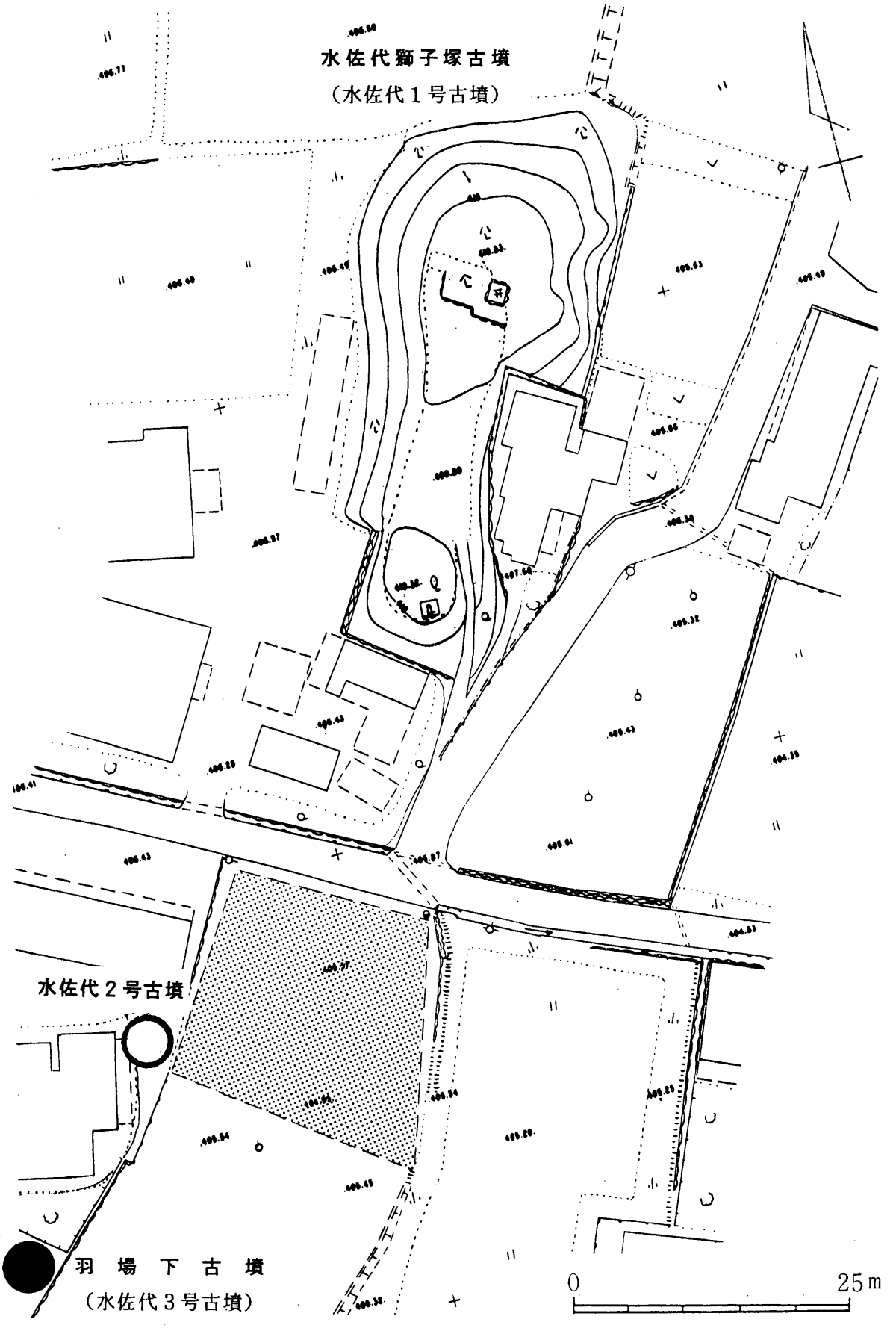
D　姫塚古墳　　E　御射山獅子塚古墳

1．水城遺跡　2．寺所遺跡　3．松尾城遺跡　4．久井遺跡　5．妙前遺跡

6．新井遺跡　7．明遺跡　8．明河原遺跡　9．上溝遺跡　10．発句遺跡

11．八幡町遺跡　12．八幡下遺跡　13．代田遺跡　14．田圃遺跡

第1図　調査遺跡及び周辺遺跡位置図




第２図　調査位置図及び周辺地図

## 2．歴史環境

松尾地区の遺跡を概観すると、天竜川氾濫源及び段丘崖を除いてほぼ全面的に包蔵地であり、古墳の多い事は特筆され、前方後方墳１基・前方後円墳８基と円墳60余基を数える。また、八幡町の旧道際で会所新築に伴う調査で現在の家並の下より石室の一部を検出し、記録の無いまま消滅した古墳が多数存在したことも推測できる。

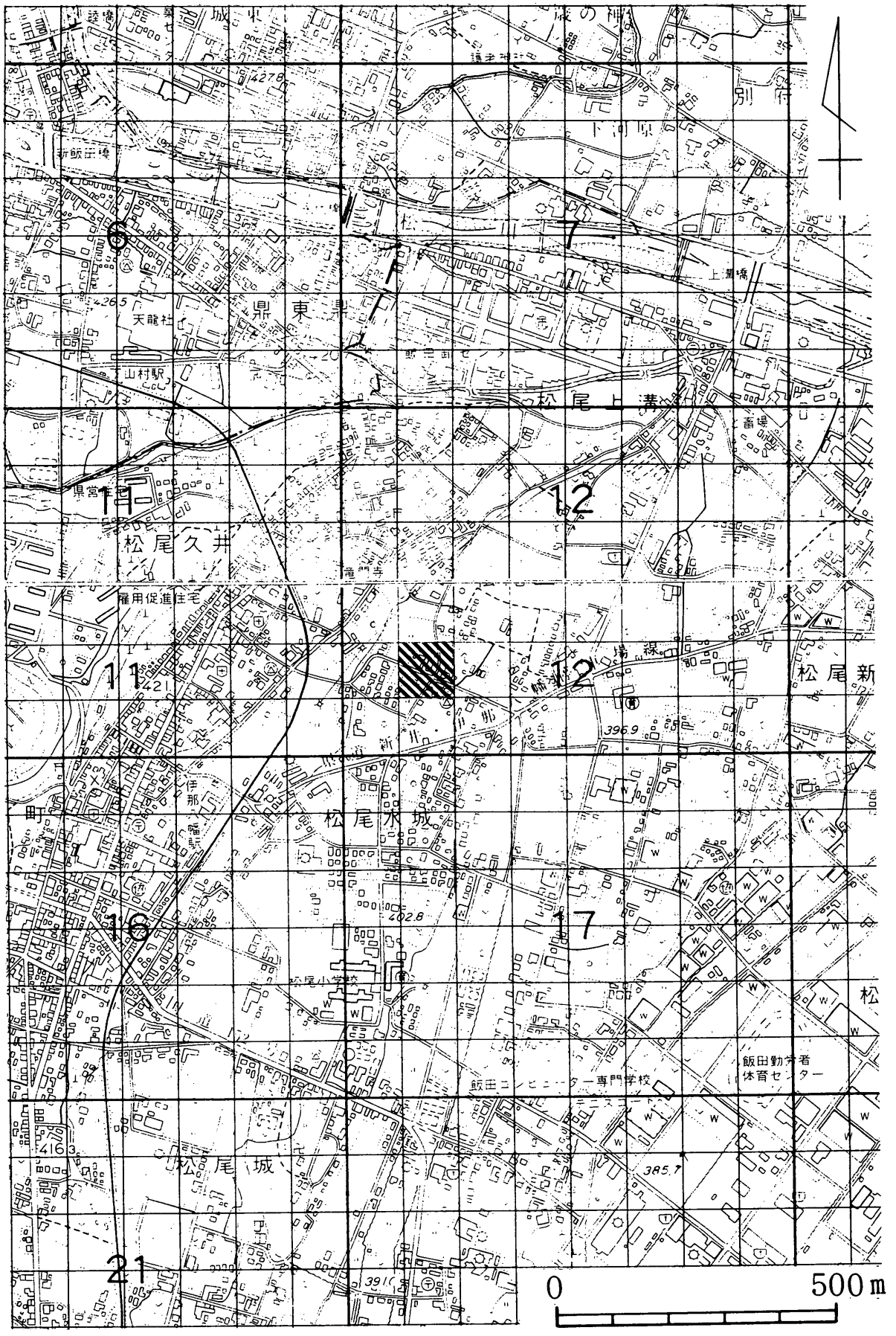
松尾地区での遺跡発掘調査としては、学術調査により寺所遺跡の一部が昭和43年１月と昭和46年３月に、昭和46年国の補助事業として妙前大塚（３号）古墳が調査されたのが端緒とし、その後は事業実施に伴う緊急発掘調査が増加している。それは、工場新築に伴う南ノ原遺跡・毛賀御射山遺跡、天竜川護岸工事と国道152号取付及び雇用促進住宅建設による清水遺跡、松尾地区公民館建設に先立つ松尾城遺跡、中学校プール建設が原因の田圃遺跡などが調査報告されている。これら、調査された遺跡はそれぞれ重要な遺構・遺物が発見されており、当地方の歴史解明に大きな意味を持つものが多い。

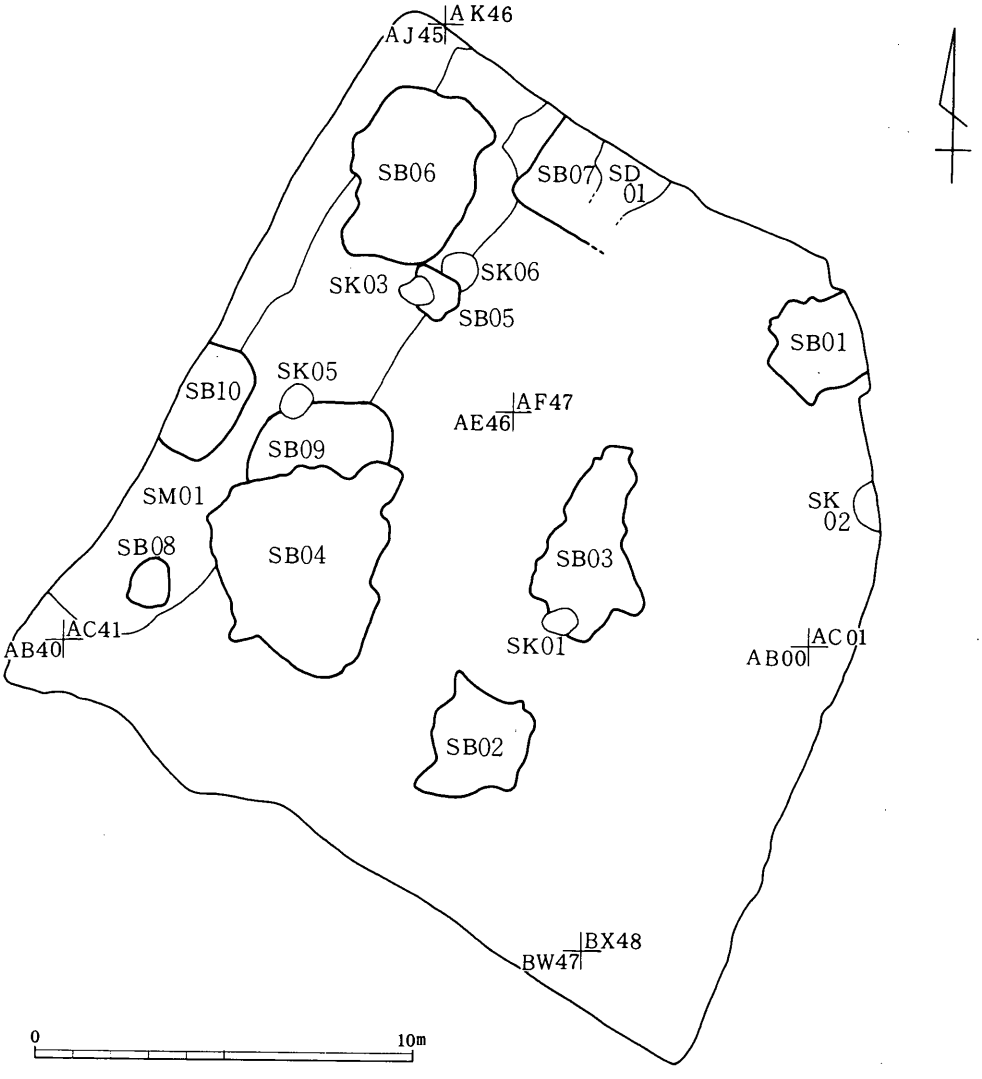
昭和49・50年、平成２年の清水遺跡、平成元年に行われた城遺跡の調査により、弥生時代後期及び古墳時代前期の集落址が発見され、かなり大規模に、かつ安定した生活が営まれていたと判断される。
妙前大塚古墳からは、県宝に指定された「眉庇付冑」が出土し、当地域最も古い古墳の一つとされる。
南ノ原遺跡では、中世小笠原氏の重臣居館址と見られる屋敷跡・堀・柵列が調査され、完形の茶臼・天目茶碗等が出土している。

毛賀御射山遺跡からは、平安時代の布目瓦の出土があり、古代寺院の存在が確認できる。
以上が、発掘調査で確認された歴史であるが、中世に入ると諸記録等残っている。
鳩ヶ峯八幡宮の神像銘には、建仁３年（1203）より造率立をはじめたとあり、重要文化財になっている。
南ノ原の南端部に築かれた松尾城は、北条氏滅亡後信濃守護職となった小笠原氏の居城で毛賀沢川を隔てた鈴岡城との親族間の確執は史実に明らかである。

歴史的に松尾地区を概観したが、平坦で肥沃な地であり、原始より古代、そして現代まで大いに栄えた地ということができる。

そのような歴史環境の中で、本遺跡は水佐代一号墳に象徴されるように、古墳時代以降松尾地区における大規模な集落の存在が予想されている地である。


新飯田駅
天龍社
山村駅
鼎東
松尾上溝
県営住宅
松尾久井
雇用促進住宅
松尾新
松尾水城
松尾小学校
飯田勤労者
体育センター
飯田コンピュータ専門学校
松尾城
0
500m


AK46
AJ45
SB06
SB07
SD 01
SK06
SK03
SB05
SB01
SB10
SK05
AF47
AE46
SB09
SM01
SK 02
SB08
SB04
SB03
AC41
AB40
SK01
AC01
AB00
SB02
BX48
BW47
0
10m

第４図　遺構全体図

# Ⅲ　調 査 結 果

## 1．調査の方法と概要

用地内を対象として調査区を設定し、既存建物解体後に調査することとなった。

測量用の基準杭設置は、飯田市埋蔵文化財基準メッシュ図に基づいて、(株) ジャステックに委託して実施した。なお、基準メッシュ図の区画については『三尋石遺跡　三尋石（Ⅱ）遺跡』(飯田市教育委員会1996) に詳しく記述されているので、そちらを参照していただきたい。本調査地の区画は挿図３にて示すとおりＬＣ85　12―34である。

今次調査で検出された遺構は以下のとおりである。

墳　丘　墓

竪穴住居址 ……９軒

竪穴状遺構 ……１基

溝　　址 ……１条

土　　坑 ……５基

## 2．遺構と遺物

### 1）古墳時代

（1）墳丘墓

①ＳＭ０１

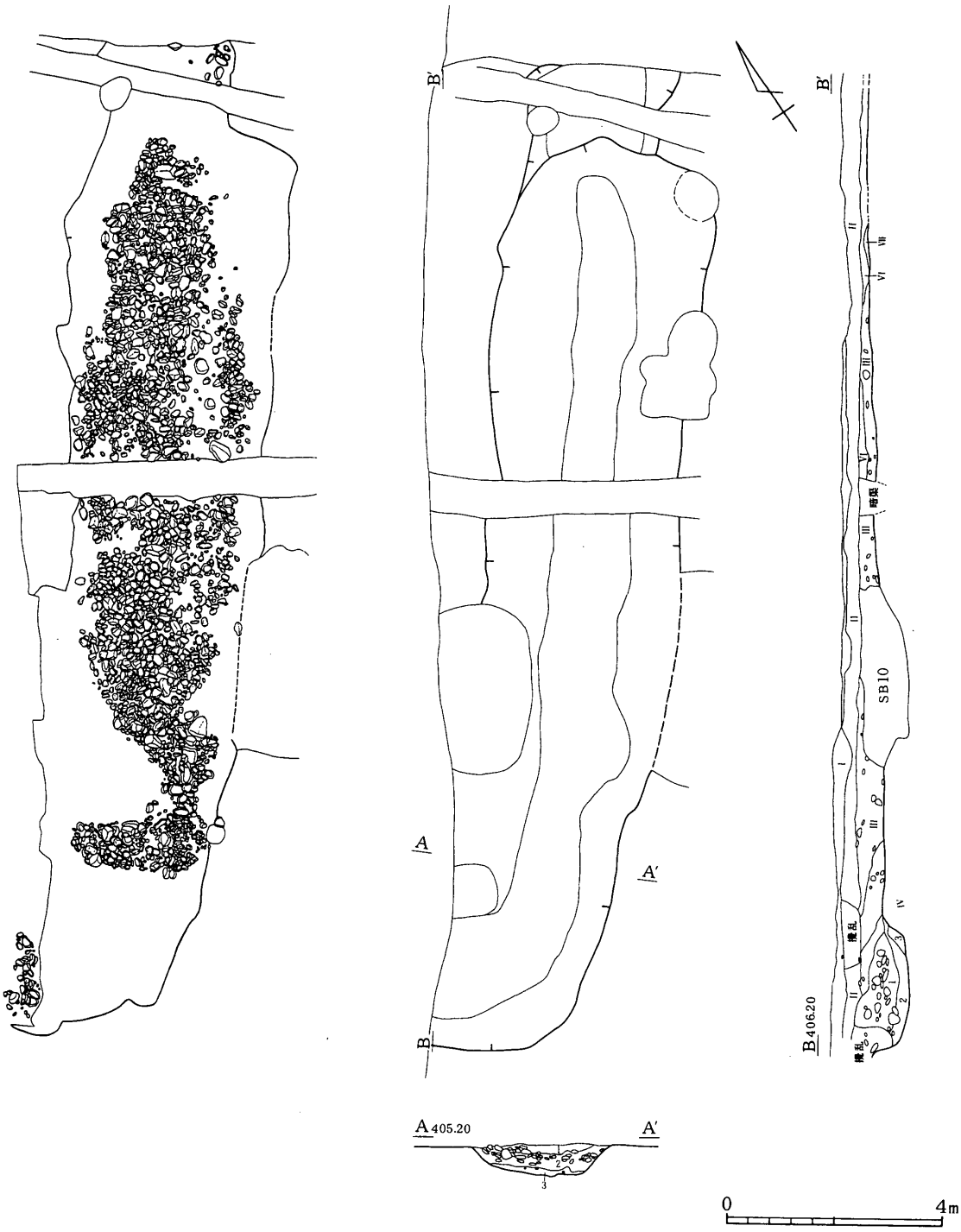
調査区の北西側で、AC－41からAJ－47にかけて南東側の溝の一部18.3mを検出する。北東・北西・南西側は、用地外で調査できないため主体部は不明である。規模・主軸方向とも不明で、方形の墳丘墓と考えられる。溝の幅は2.4～ 3.6m、深さ58～ 119cmを測り、緩やかに立ち上がる。

周溝内には、約10～45cmの石が周溝内全体に多量に確認される。この石は本来の位置に残っているものではなく、周溝の埋没過程で、墳丘から周溝にかけて貼られた石が転落したものと考えられる。

また周溝は、AI－46付近で深さ10～20cmと急に浅くなっており、入り口等何らかの施設であった可能性がある。

遺物は、５世紀中頃に比定される高坏、５世紀後半から６世紀前半の蓋坏があり、その他時期の判断できない甑・高台坏片が出土する。また資料提示できなかったが、内面黒色土器の坏片が20点程出土する。

高坏・蓋坏は第３層より出土しており、このことより本墳丘墓は古墳時代中期の築造と判断され、それ以降の遺物は、埋没時の混入遺物と考えられる。




1　暗褐色土（10YR 3/3）
2　黒褐色土（10YR 2/2）
3　褐灰砂土（10YR 4/1）

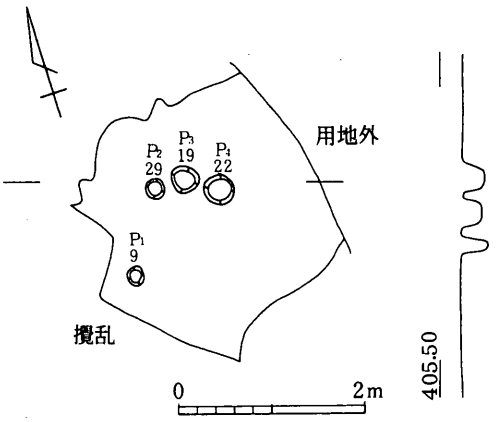
Ⅰ　表土
Ⅱ　灰色土（旧田んぼの土）
Ⅲ　褐色砂質土（10YR 4/6）
Ⅳ　暗褐砂質土（10YR 3/3）
Ⅴ　黒褐砂質土（10YR 2/3）
Ⅵ　にぶい黄褐砂質土（10YR 4/3）
Ⅶ　褐色砂質土（10YR 4/6）

第5図　SM01

2）平安時代

（1）竪穴住居址

①ＳＢ０１

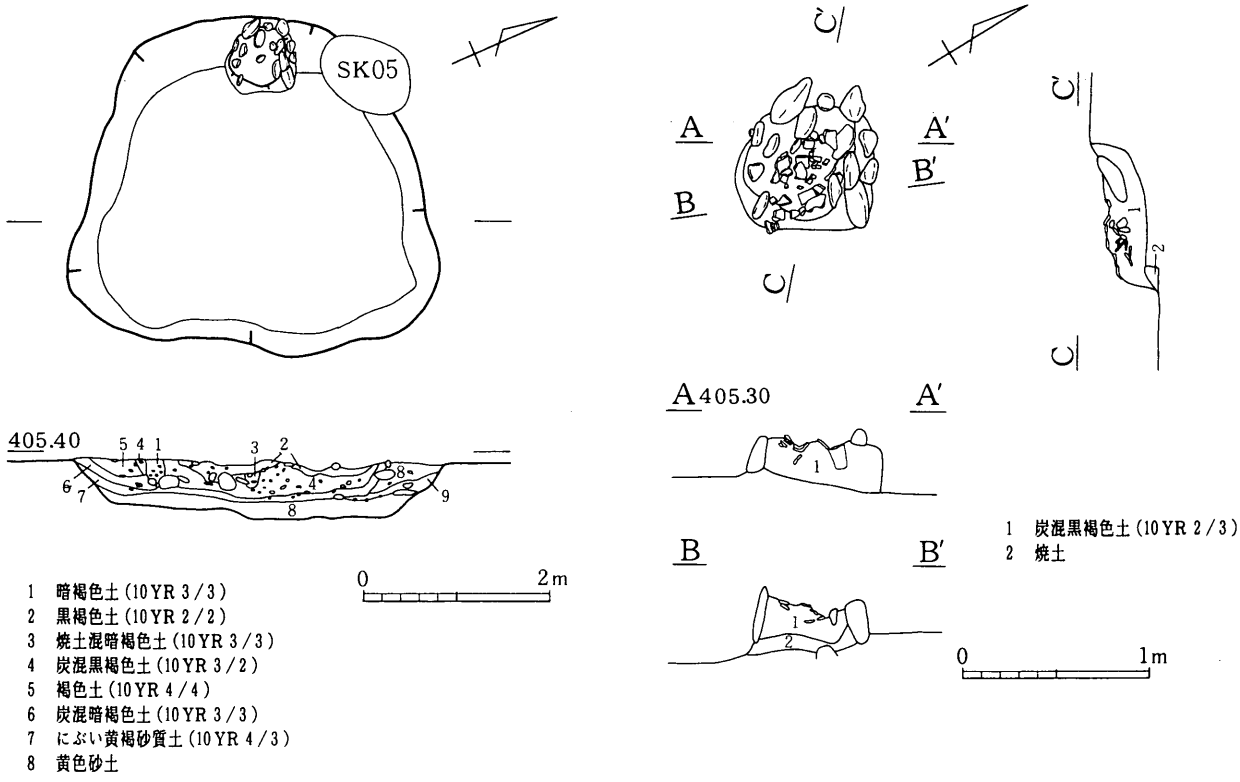



第6図　ＳＢ０１

| 遺構番号 | ＳＢ01 | | 検出位置 | ＡＧ01 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 規　　模 | (288) × (248) ×－cm | 長　軸 | 不　明 | 平面形 | 不　明 |
| 検出状況 | 貼床のみ検出する | | | | |
| 重複関係 | 周囲は既存建物配管工事により壊されており他の遺構との重複関係不明 | | | | |
| 壁 | 削平され確認できない | | | | |
| 床 | 貼床がされ全体が硬い | | | | |
| 柱　　穴 | Ｐ１～Ｐ４が確認されるが主柱穴は不明 | | | | |
| カ　マ　ド | 確認されず | | | | |
| 付属施設 | 不明 | | | | |
| 遺　　物 | 土師器長胴甕・甕・内面黒色の坏 | | | | |
| そ　の　他 | 削平・攪乱により床面のみ検出され調査区外へ広がる住居址　時期は出土遺物より平安時代９世紀後半と判断される | | | | |

表1　ＳＢ０１

②ＳＢ０９




第7図　ＳＢ０９

| 遺構番号 | ＳＢ09 | | 検出位置 | ＡＥ45 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 規　　模 | 386×356×58cm | 長　軸 | N62° W | 平面形 | 不整形 |
| 検出状況 | 埋土が明確に異なり検出 | | | | |
| 重複関係 | ＳＭ01を切る　ＳＢ04・ＳＫ05に切られる | | | | |
| 壁 | 軟弱でやや緩やかに立ち上がる | | | | |
| 床 | 軟弱で砂質土の地山を床とする | | | | |
| 柱　　穴 | 不明 | | | | |
| カ　マ　ド | １基が確認され袖は石組で構築される　煙道は不明　支脚はなく抜き取り痕も不明<br>天井石はなく遺物が上部より投棄されたと思われる状態で甕が出土する | | | | |
| 付属施設 | 不明 | | | | |
| 遺　　物 | 土師器長胴甕・甕・坏・内面黒色の坏　須恵器甕・坏・蓋・鉢　灰釉陶器平瓶・皿 | | | | |
| そ　の　他 | 遺物は破片での出土が多数あり接合するものが多い　出土遺物より平安時代９世紀後半から９世紀末に比定される | | | | |

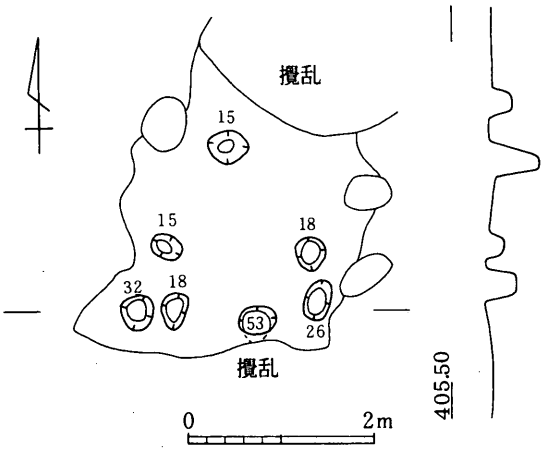
表2　ＳＢ０９

3）時期不明

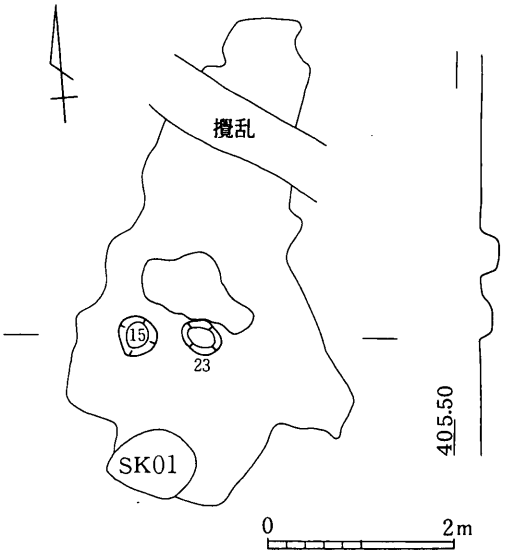
（1）竪穴住居址

①ＳＢ０２

②ＳＢ０３




第8図　ＳＢ０２




第9図　ＳＢ０３

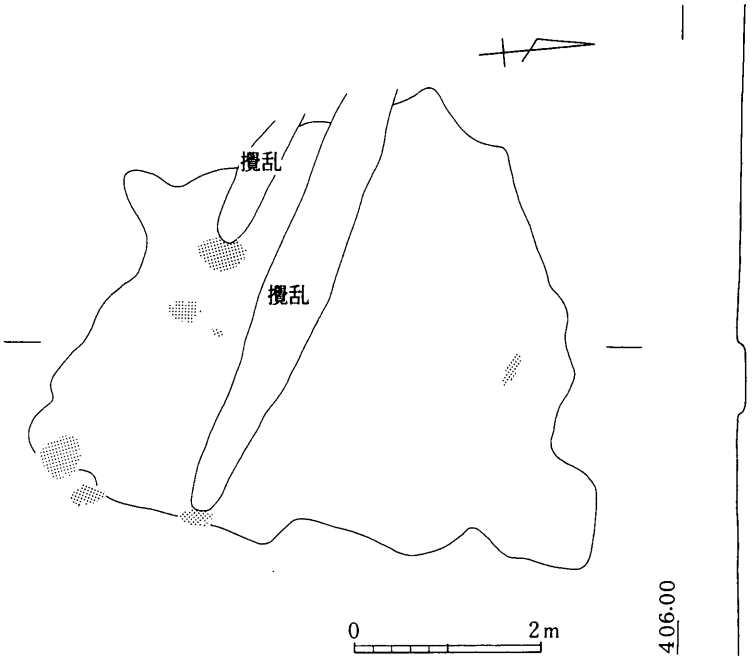
| 遺構番号 | ＳＢ02 | | 検出位置 | ＡＡ46 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 規　　模 | (328)×(268)×－cm | 長　軸 | 不　明 | 平面形 | 不　明 |
| 検出状況 | 床面のみ検出する | | | | |
| 重複関係 | 周囲が既存建物の基礎工事により壊される　他の遺構との重複関係不明 | | | | |
| 壁 | 削平され確認できない | | | | |
| 床 | 貼床がされ全体が硬い | | | | |
| 柱　　穴 | pitは確認されるが主柱穴は不明 | | | | |
| カ　マ　ド | 確認されず | | | | |
| 付属施設 | 不明 | | | | |
| 遺　　物 | なし | | | | |
| そ　の　他 | 四方とも削平・攪乱により切られる　貼床より平安時代９世紀後半に比定される甕が出土するが１点のみであり住居址の時期等詳細は不明である | | | | |

表3　ＳＢ０２

| 遺構番号 | ＳＢ03 | | 検出位置 | ＡＤ48 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 規　　模 | (479)×(304)×－cm | 長　軸 | 不　明 | 平面形 | 不　明 |
| 検出状況 | 床面のみ検出する | | | | |
| 重複関係 | ＳＫ01に切られる | | | | |
| 壁 | 削平され確認できない | | | | |
| 床 | 貼床がされ全体が硬い　部分的に焼土がある | | | | |
| 柱　　穴 | 不明 | | | | |
| カ　マ　ド | 確認されず | | | | |
| 付属施設 | 不明 | | | | |
| 遺　　物 | なし | | | | |
| そ　の　他 | 削平により床面のみ検出される　わずかに焼土が確認されるものの粘土等はなくカマドの痕跡も確認できない　遺物は出土せず時期等詳細は不明である | | | | |

表4　ＳＢ０３

③ＳＢ０４

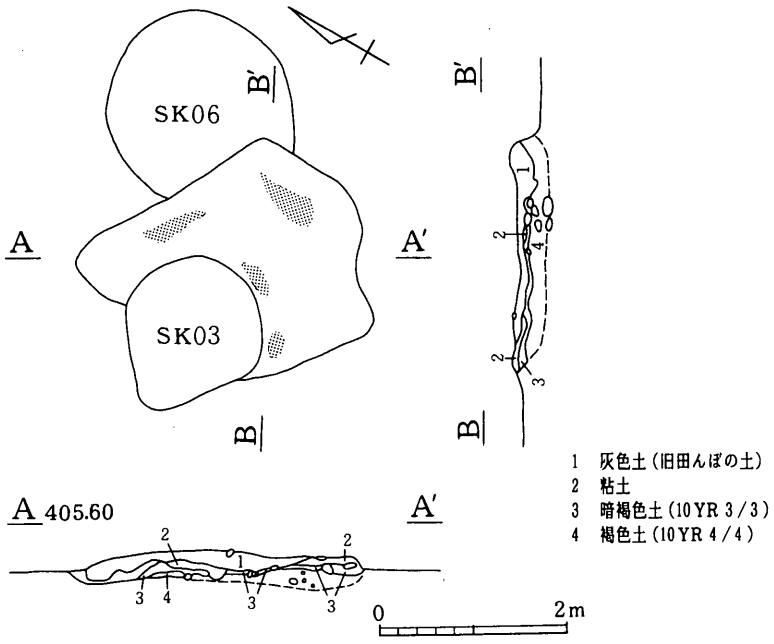



第10図　ＳＢ０４

| 遺構番号 | ＳＢ04 | | 検出位置 | ＡＤ44 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 規　　模 | (612)×(508)×－cm | 長　軸 | 不　明 | 平面形 | 不　明 |
| 検出状況 | 貼床のみ検出 | | | | |
| 重複関係 | ＳＢ09を切る | | | | |
| 壁 | 削平され確認できない | | | | |
| 床 | 貼床がされ全体が硬い　部分的に焼土がある | | | | |
| 柱　　穴 | 確認されず | | | | |
| カ　マ　ド | 確認されず | | | | |
| 付属施設 | 不明 | | | | |
| 遺　　物 | なし | | | | |
| そ　の　他 | ＳＢ09が平安時代９世紀後半に比定されることより該期以降と判断されるが詳細は不明 | | | | |

表５　ＳＢ０４

④ＳＢ０５




第11図　ＳＢ０５

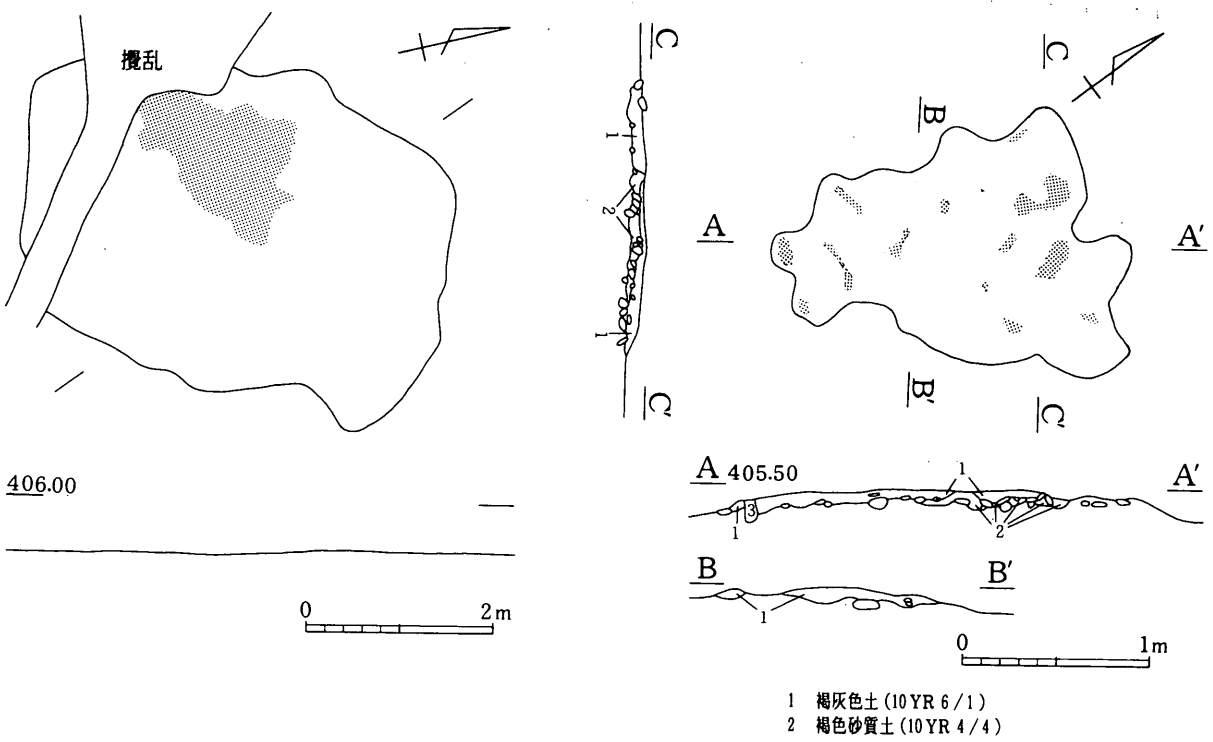
| 遺構番号 | ＳＢ05 | | 検出位置 | ＡＧ45 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 規　　模 | －×－×－cm | 長　軸 | 不　明 | 平面形 | 不　明 |
| 検出状況 | カマドの粘土・焼土のみ検出される | | | | |
| 重複関係 | ＳＫ03に切られＳＫ06・ＳＭ01を切る | | | | |
| 壁 | 不明 | | | | |
| 床 | 不明 | | | | |
| 柱　　穴 | 不明 | | | | |
| カ　マ　ド | 粘土は薄く残存し上部は削平される　袖石等をぬいた跡は確認されない | | | | |
| 付属施設 | 不明 | | | | |
| 遺　　物 | なし | | | | |
| そ　の　他 | 出土遺物等はなく床面の確認ができる範囲は狭い　詳細は不明 | | | | |

表6　ＳＢ０５

⑤ＳＢ０６

| 遺構番号 | ＳＢ06 | | 検出位置 | ＡＩ45 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 規　　模 | (508) × (356) cm | 長　軸 | 不　明 | 平面形 | 不　明 |
| 検出状況 | 床面および粘土を確認し拡張して検出 | | | | |
| 重複関係 | ＳＭ01を切る | | | | |
| 壁 | 削平され確認できない | | | | |
| 床 | 貼床がされ全体が硬い　焼土等は確認されない | | | | |
| 柱　　穴 | 不明 | | | | |
| カ　マ　ド | 粘土・焼土が確認されるが袖石等はない　礫が粘土中に混じる<br>粘土は上部が削平され薄く広がるのみである。 | | | | |
| 付属施設 | 不明 | | | | |
| 遺　　物 | なし | | | | |
| そ　の　他 | 出土遺物等はなく詳細は不明 | | | | |

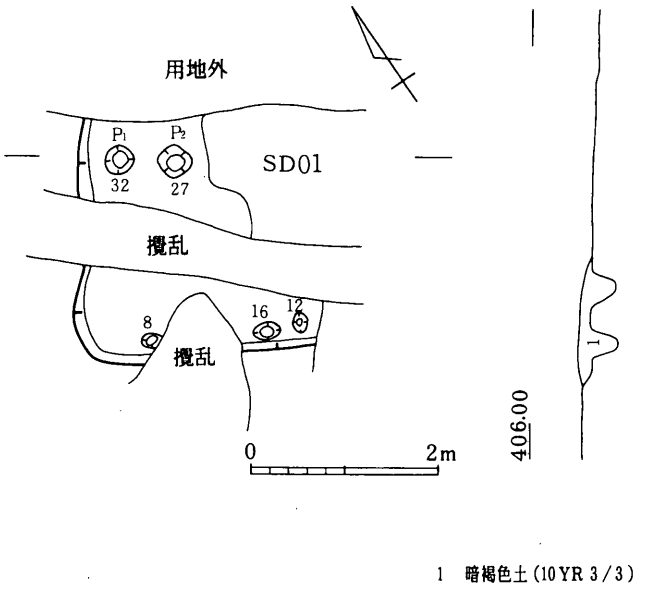
表7　ＳＢ０６



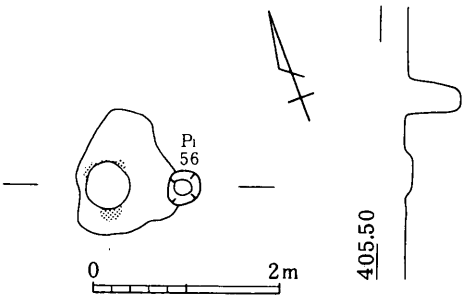

第12図　ＳＢ０６

⑥ＳＢ０７

⑦ＳＢ０８




第13図　ＳＢ０７




第14図　ＳＢ０８

| 遺構番号 | ＳＢ07 | | 検出位置 | ＡＩ48 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 規　　模 | (254) × (260) ×12cm | 長　軸 | 不　明 | 平面形 | 隅丸方形と推測される |
| 検出状況 | 埋土が明確に異なり検出 | | | | |
| 重複関係 | ＳＤ01に切られる | | | | |
| 壁 | 明確でやや緩やかに立ち上がる | | | | |
| 床 | 硬い部分はない | | | | |
| 柱　　穴 | 主柱穴Ｐ１・Ｐ２ | | | | |
| カ マ ド | 不明 | | | | |
| 付属施設 | 不明 | | | | |
| 遺　　物 | なし | | | | |
| そ の 他 | 埋土は単層で炭等は混らない　時期等詳細は不明 | | | | |

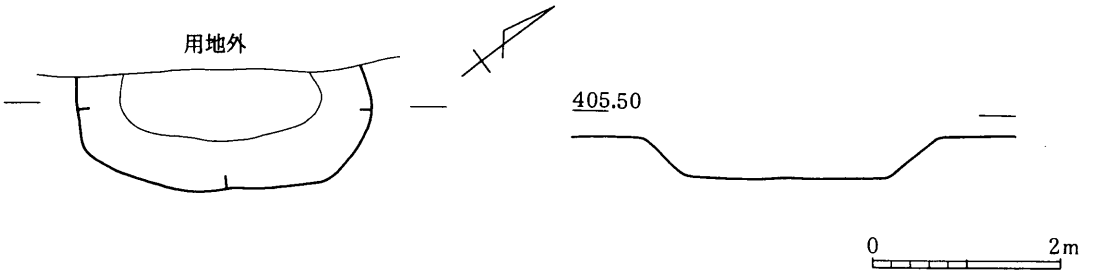
表8　ＳＢ０７

| 遺構番号 | ＳＢ08 | | 検出位置 | ＡＣ41 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 規　　模 | (116) × (134) ×－cm | 長　軸 | 不　明 | 平面形 | 不　明 |
| 検出状況 | 床面・粘土・焼土を検出する | | | | |
| 重複関係 | ＳＭ01を切る | | | | |
| 壁 | 削平され確認できない | | | | |
| 床 | 貼床され全体が硬い | | | | |
| 柱　　穴 | Ｐ１が柱穴と思われるが主柱穴かは不明 | | | | |
| カ マ ド | カマドの痕跡と思われる粘土及び焼土を確認する<br>焼土は厚く推積し床面よりやや高くなる　焼土・粘土中から遺物は出土しない | | | | |
| 付属施設 | 不明 | | | | |
| 遺　　物 | なし | | | | |
| そ の 他 | 出土遺物等はなく床面の確認できる範囲は狭い　時期等詳細は不明 | | | | |

表9　ＳＢ０８

（2）竪穴状遺構

①ＳＢ１０



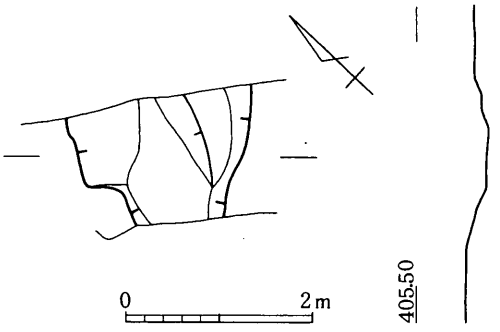

第15図　ＳＢ１０

| 遺構番号 | ＳＢ10 | | 検出位置 | ＡＥ42 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 規　　模 | 304×（86）×44cm | 長　軸 | N30°Ｅ | 平面形 | 不整形 |
| 検出状況 | 埋土が明確に異なり検出 | | | | |
| 重複関係 | ＳＭ01を切る | | | | |
| 壁 | 明確でやや緩やかに立ち上がる | | | | |
| 底　　部 | ほぼ平坦で軟弱 | | | | |
| 柱　　穴 | 不明 | | | | |
| 付属施設 | 不明 | | | | |
| 遺　　物 | なし | | | | |
| そ の 他 | 調査区外に広がり埋土に礫等は混入しない　時期等詳細は不明である | | | | |

表9　ＳＢ０８

（3）溝址

①ＳＤ０１



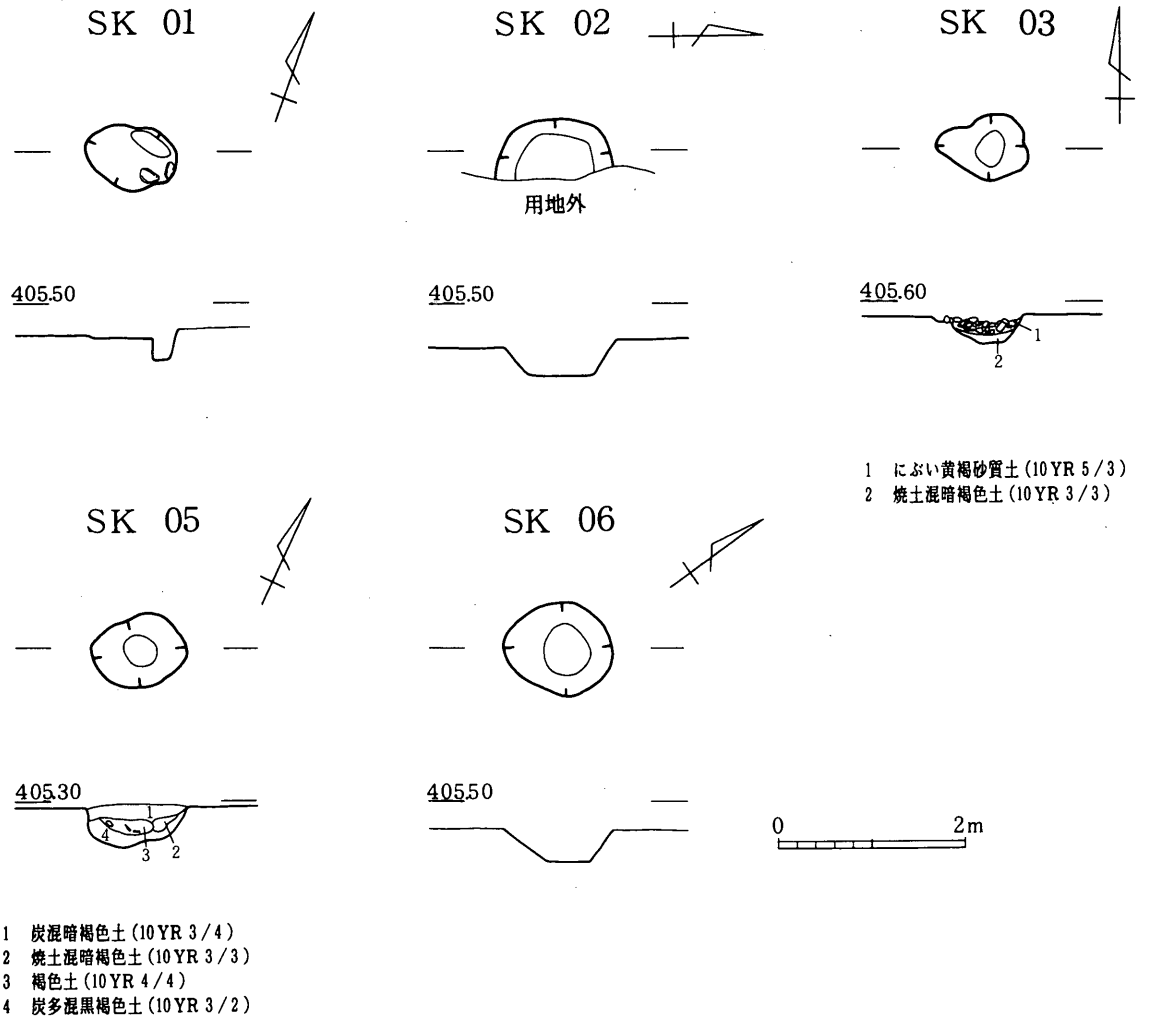

第16図　ＳＤ０１

調査区北部ＡＨ－48で検出した。幅190cm前後・深さ18cmを測り、方向はN42°Ｅを示す。

北側は調査区外、南側は既存建物の基礎工事により破壊される。このため長さは不明である。

埋土は白色砂で出土遺物はなく、時期等は不明であるが自然流路と考えられる。

（4）土　坑




第17図　ＳＫ０１・０２・０３・０５・０６

| No | 図 No | 検出位置 | 規模（長軸×短軸×深）cm | 形　態 | 時期 | 出土遺物 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 17 | AC－47 | 96 × 68 × 28 | 不定形 | 不明 | なし | 埋土上層に礫が入る |
| 2 | 17 | AD－01 | 124 ×(64)× 36 | 楕円形 | 不明 | なし | |
| 3 | 17 | AG－45 | 97 × 69 × 31 | 不定形 | 不明 | なし | |
| 5 | 17 | AF－44 | 101 × 78 × 41 | 楕円形 | 不明 | なし | |
| 6 | 17 | AH－46 | 116 ×100 × 34 | 楕円形 | 不明 | なし | |

表11　ＳＫ０１・０２・０３・０５・０６

（5）遺構外出土遺物

遺構外出土遺物についても、遺構と同様に主に2時期が確認される。

第23図1～6は土師器甕の口縁部から胴部が僅かに出土しているのみであり、古墳時代中～後期である。第23図10は屈折脚の高坏で5世紀代古墳時代中期に、また同11の高坏も龍江細新遺跡のＳＢ48等で出土するものと同じ脚形であり、古墳時代中期後半に比定される。

第23図12～第24図8は、いずれも平安時代9世紀後半から終末にかけての遺物である。第24図7・8の灰釉陶器の皿は光が丘産と考えられ、ＳＢ09とほぼ同時期である。

第24図9・10は中世に比定され、特に10については、内面に墨汁跡が確認され、朱墨パレットとして使用されたと考えられる。

# Ⅳ まとめ

今次調査によって検出された遺構・遺物については、すでに述べたとおりである。ここでは、調査によって得られた成果・問題点について、大きく３つに分けて取り上げてまとめとしたい。

## １．水佐代１号古墳について

当初は、今次調査用地内に隣接する前方後円墳である水佐代１号古墳の、周溝が確認されるのではないかと予想されていた。前方部南側は、現在宅地となっており、現況よりこの宅地建築の際、造成により墳丘が切り土されているものと考えられる。このため、墳丘は現在よりも南側に大きく広がっていたと推測でき、周溝の位置が今次調査区までおよぶ可能性があると考えられていた。

しかしその存在は確認されず、該期の古墳に伴う遺物も出土しなかった。これらより周溝は、今次調査区の北側、当初の予測より内側を巡っていることが判った。

なお、本墳の年代についてはかつての記録等により、横穴式石室を埋葬施設とする後期のものと考えられてきた。しかし、墳丘上に見られる埴輪片から判断すると５世紀まで溯ると思われ、埋葬施設も竪穴系のものである可能性が高い。

## ２．ＳＭ０１について（墳丘墓）

墳丘墓の時期は５世紀代に位置付けたわけであるが、約１km東に位置する寺所遺跡で出土している墳丘墓とほぼ同時期であり、貼り石を持つという点では、寺所遺跡のＳＭ01・03に共通しており、全体は不明であるが、確認部分の周溝から規模としてはこちらの方が大きい。

今次調査で問題となる点は、水佐代２号古墳の存在位置と、確認された墳丘墓の関係である。第２図で示した位置には、２号墳墳丘である土盛りがあったと、以前より地元住民に言い伝えられてきている。しかしながらこの位置は、今次調査で確認された周溝の外側にあたる。もし、この位置に本当に古墳があったとすれば、今次調査区でその周溝が出土するはずであるが、痕跡は確認されなかった。

これらのことより、ＳＭ01とした墳丘墓の周溝は、水佐代２号古墳の周溝であり、かつて存在したとされる土盛りと今回の周溝の確認から、古墳として捉えうる可能性の高いものといえる。

また築造時期から、隣接する長さ50数mの前方後円墳水佐代第１号古墳を盟主とした墓域を形成しており、当地方５世紀以降の隆盛した古墳時代の一端を担った地帯として位置づけられる。

## ３．平安時代集落について

今次調査により最も多く遺物が出土する時期が平安時代９世紀後半であることは、調査結果より明確である。今次調査以前に本遺跡内においては、市内遺跡詳細分布調査等において該期の遺物は採取されるものの、遺構の確認はされていなかった。

飯田市内における該期集落は、低位段丘上の遺跡として北は座光寺地区の恒川遺跡から上郷地区の堂垣外あるいは矢崎遺跡において奈良時代以降広がりを見せ、また南では松尾地区の清水遺跡・竜丘地区の安宅遺跡・龍江地区の細新遺跡などがある。

中位段丘上の遺跡としては、鼎地区日向田遺跡・八幡原遺跡・猿小場遺跡などにおいても集落址が確認されている。

これらの遺跡の分布状況を見ると、天竜川に近い中低位段丘上に比較的大規模な集落が展開する様相であり、前時代に整備された律令の東山道筋に形成されたと考えられる。本遺跡も、当然律令末期の伊那郡を支えた重要な集落の１つとして位置づけられるものといえる。

また、該期遺物のほとんどはＳＢ09一軒よりの出土であり、投棄された感じすら伺えるほどの出土のしかたであり、その多さは市内で確認された該期住居址では他に例はない。カマドを有する点から住居址と言えるわけではあるが、その平面形は不整形であり、一般の住居とは異なった性格を考えるべき遺構ともいえる。今後、出土遺物に関する詳細な検討を行なうなど、本遺構の性格を明らかにすることにより、本遺跡そのものの有する意味を把握することが可能となり、それによって当地方の平安時代のありさまを知ることができる重要な資料であることはいうまでもない。

限られた範囲内での調査であり、古墳時代については墳丘墓の平面形・埋葬形態等明らかにできなかったわけであるが、今後隣接する寺所遺跡の類例も含めて、当地方の墓制を整理する中で墳丘墓の意義が明らかになると考えられ、今後の課題である。

また、平安時代連続して集落が営まれていたかどうかについても不明である。しかしながら飯田市内全域から見て、本遺跡において平安時代９世紀後半の住居址が確認されたことは、該期の松尾地区さらに当地方全体での様相を明らかにしていく上で、大きな成果であると言えよう。

**引用・参考文献**


飯田市教育委員会　1995　安宅遺跡

飯田市教育委員会　1991　城遺跡

飯田市教育委員会　1991　清水遺跡

飯田市教育委員会　1992　八幡原遺跡　物見塚古墳

飯田市教育委員会　1992　八幡原遺跡

飯田市教育委員会　1992　猿小湯遺跡

飯田市教育委員会　1993　久井遺跡

飯田市教育委員会　1993　田圃遺跡

飯田市教育委員会　1994　日向田遺跡Ⅲ

飯田市教育委員会　1998　龍江細新遺跡

飯田市教育委員会　1999　寺所遺跡

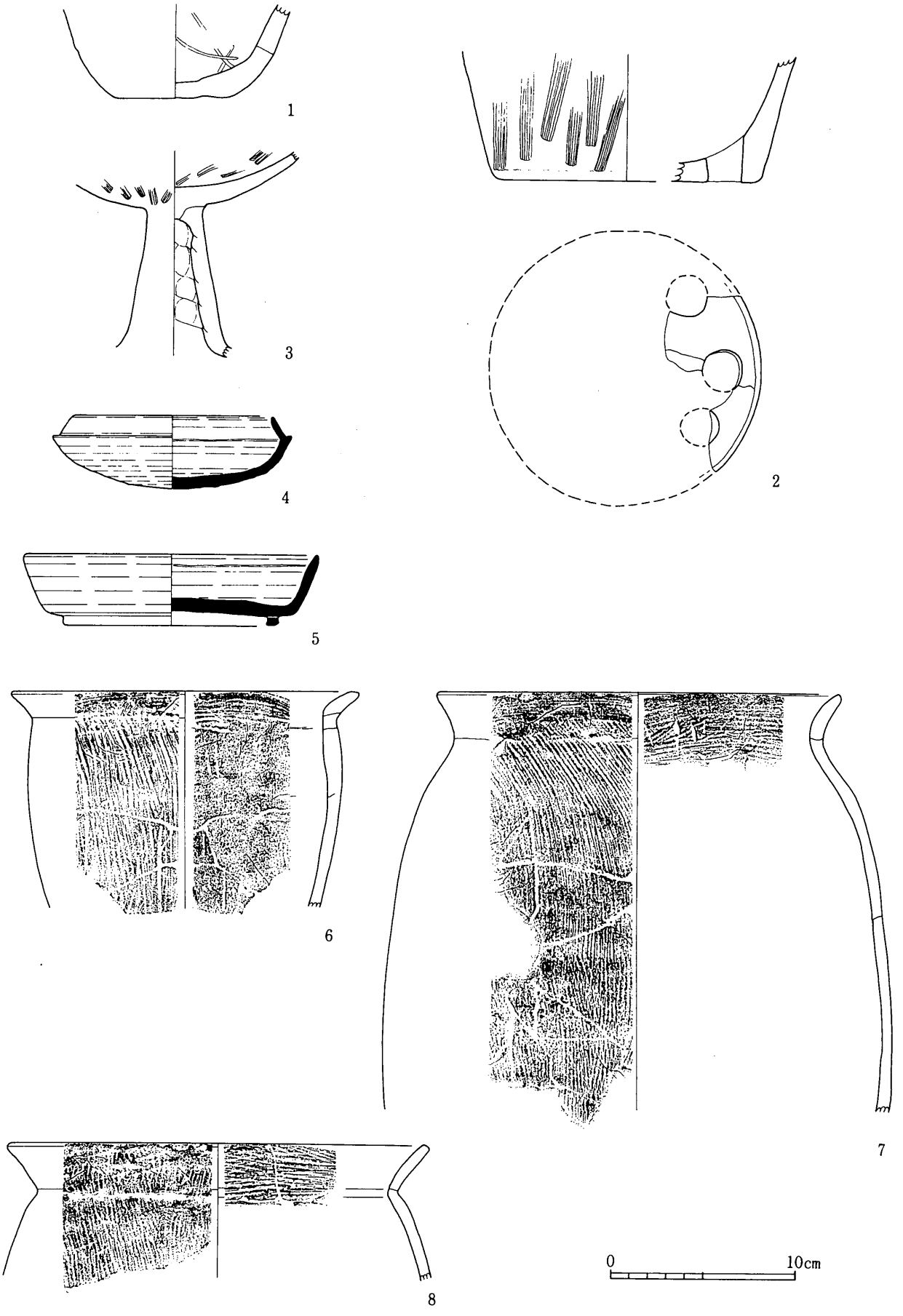
大沢和夫他　1982　松尾村誌

上郷町教育委員会　1988　矢崎遺跡

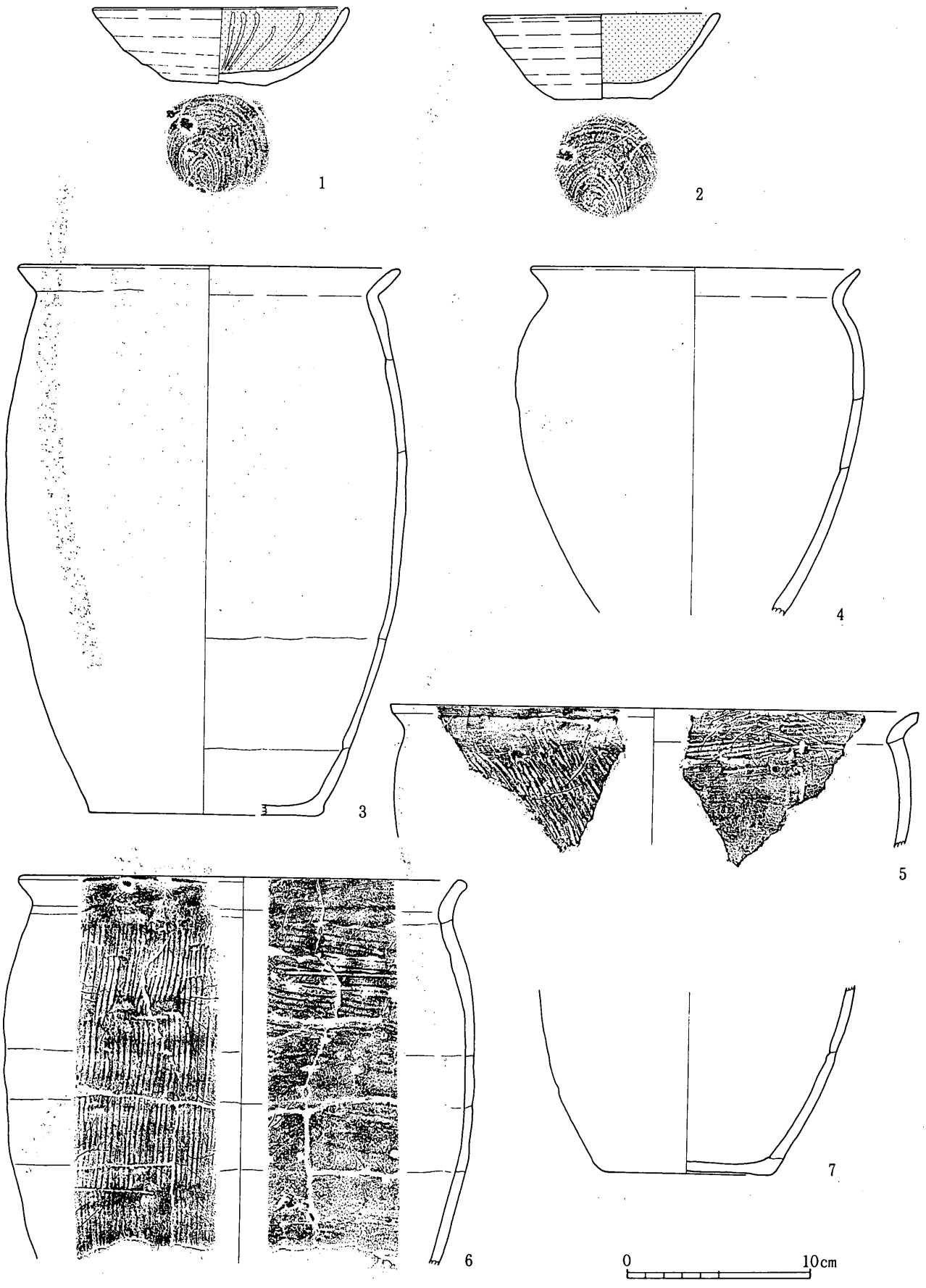
楢崎彰一他　1979　世界陶磁全集２　日本古代

長野県埋蔵文化財センター　1990　中央自動車道長野線　埋蔵文化財発掘調査報告書
—松本市内その１—　総論編

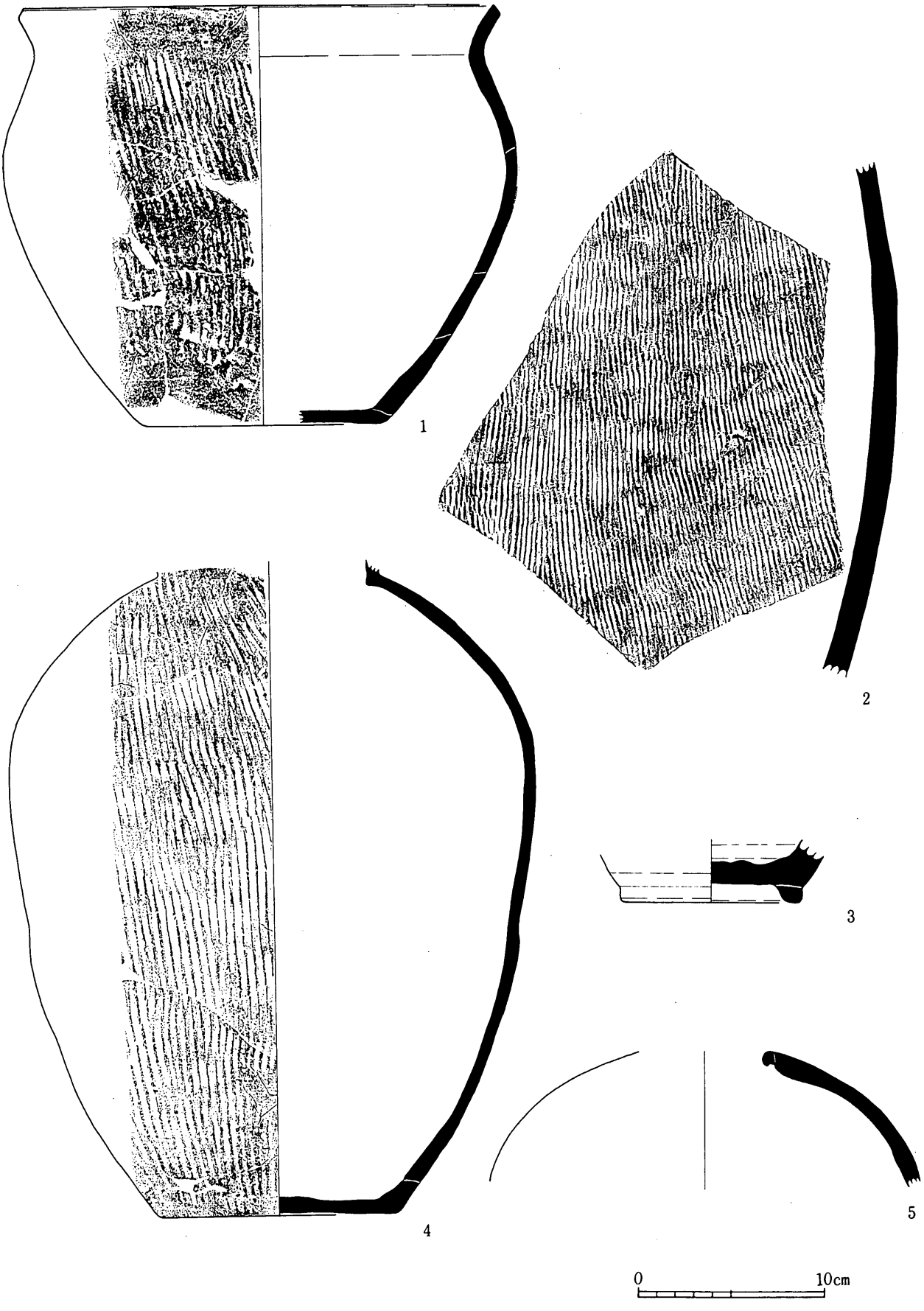
# 遺　物　図　版



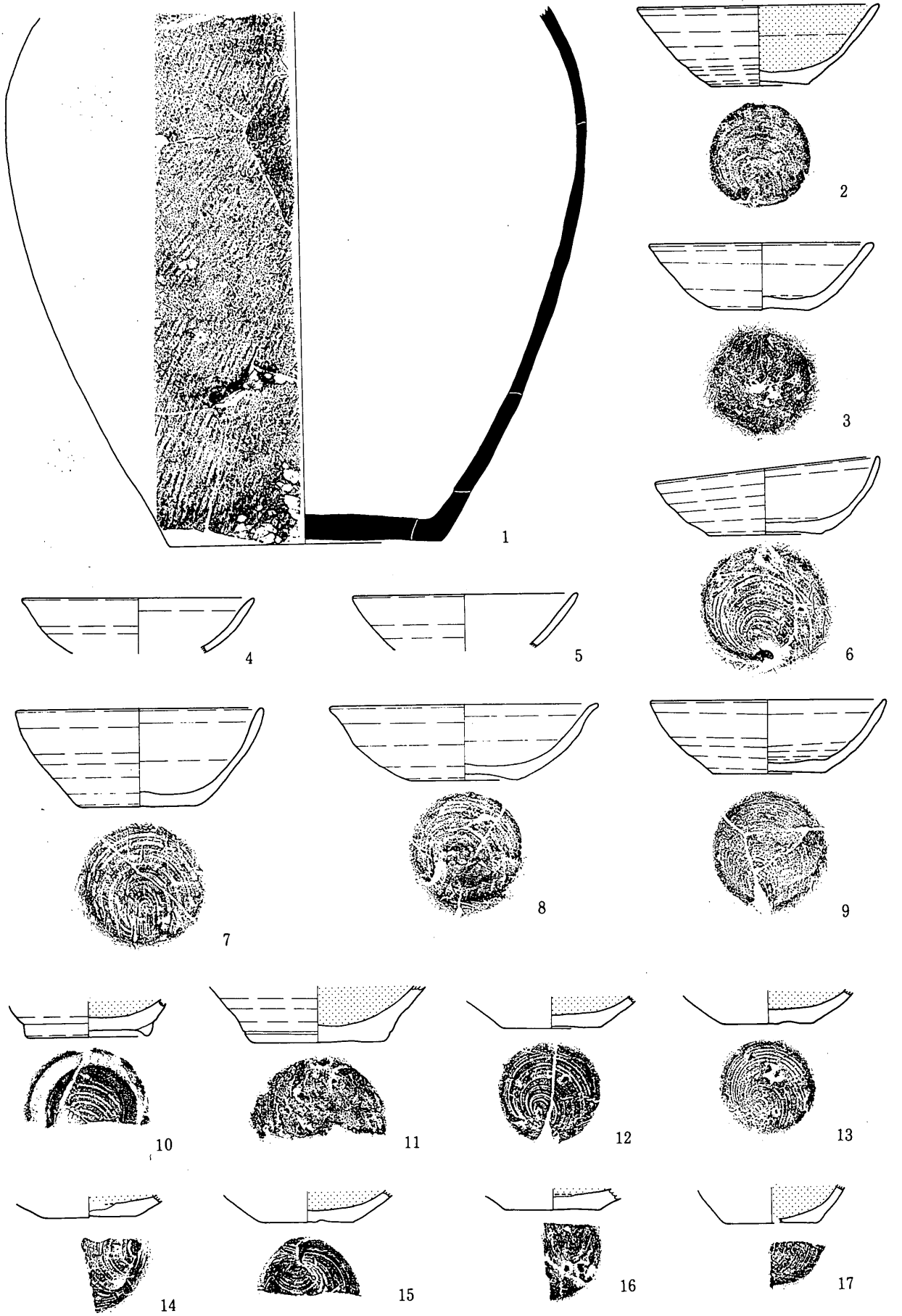

第18図　出土遺物　1～5　SM01
6～8　SB01



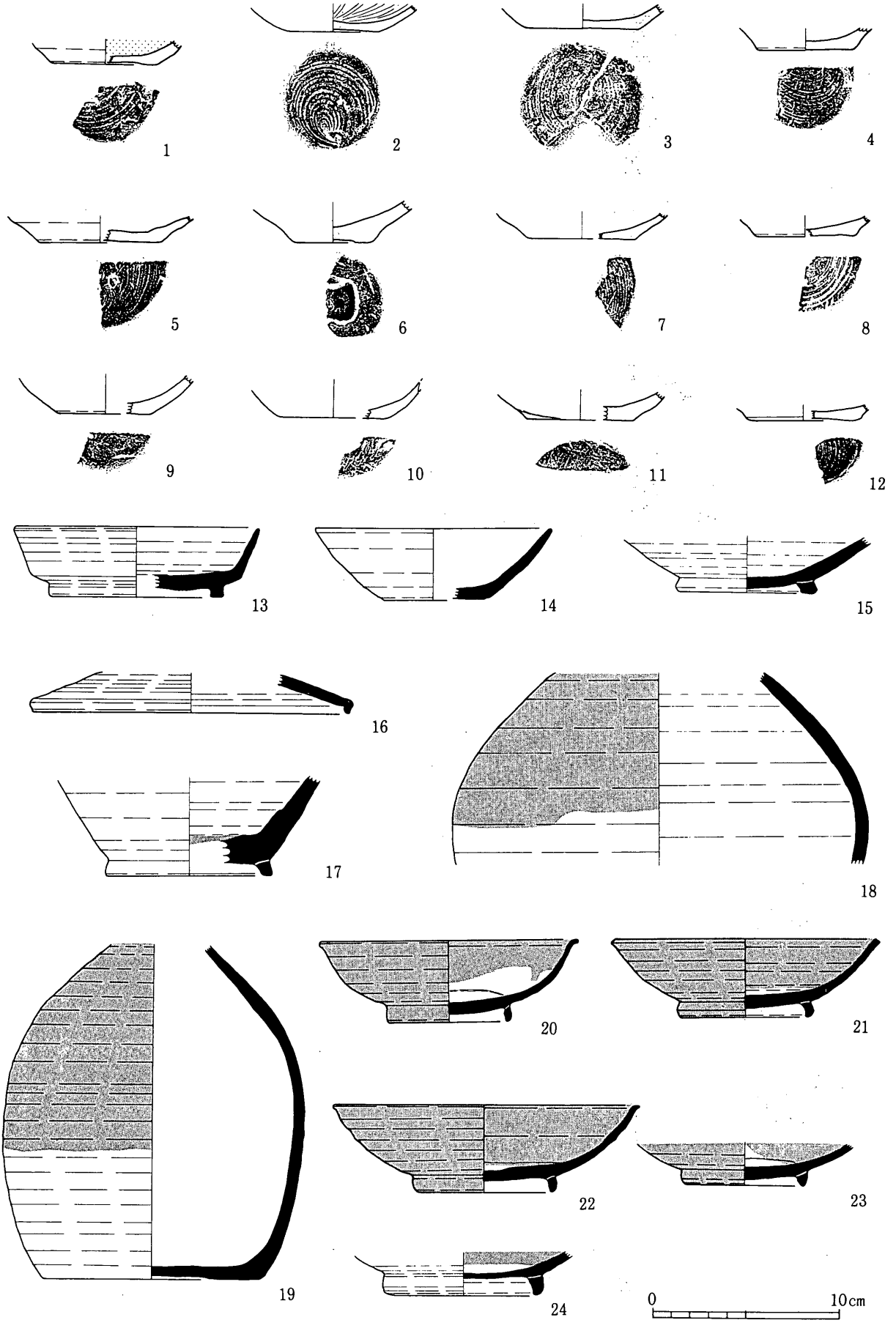

第19図　出土遺物　1～2　ＳＢ０１
　　3～7　ＳＢ０９



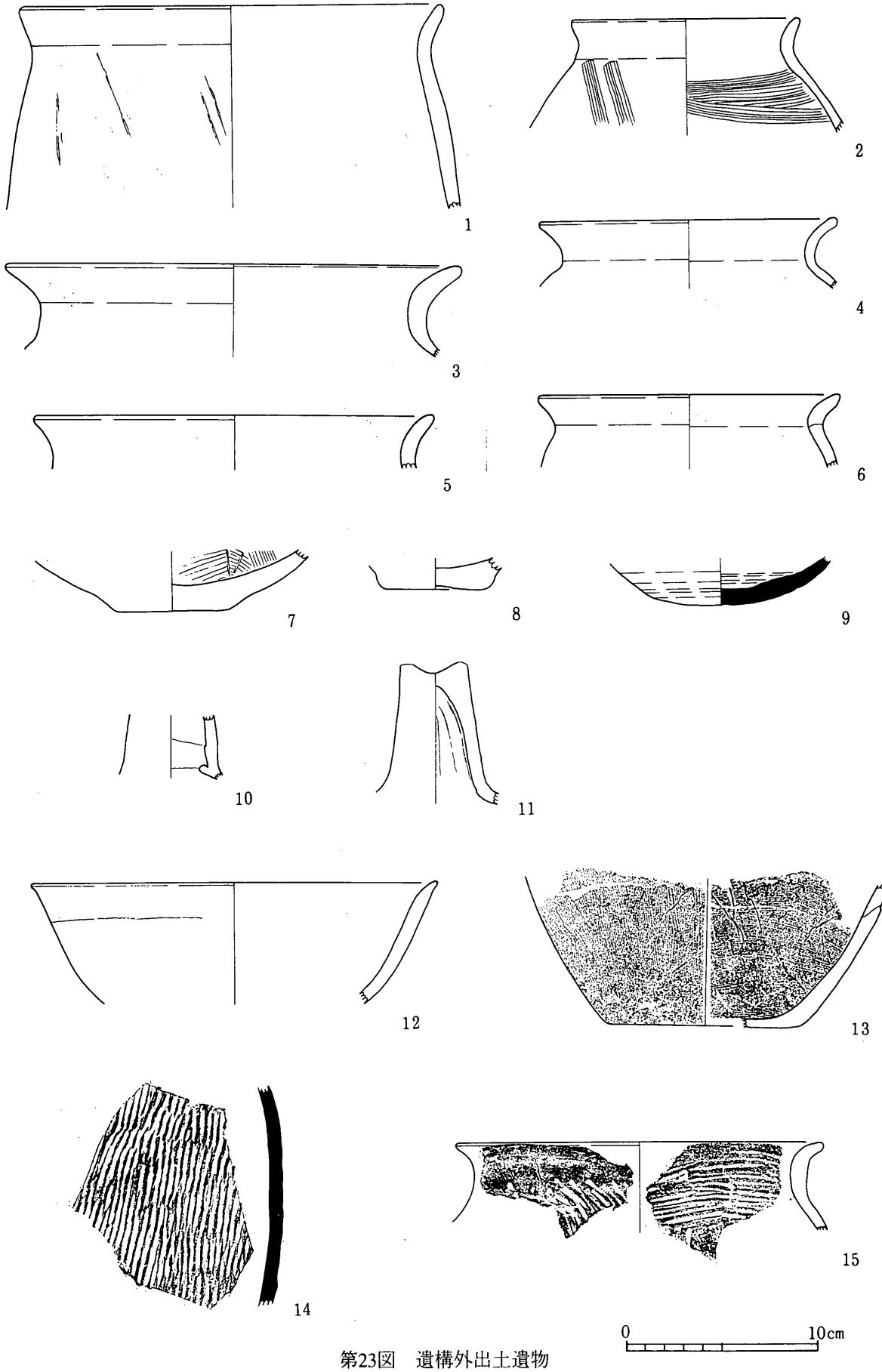

第20図　ＳＢ０９　出土遺物



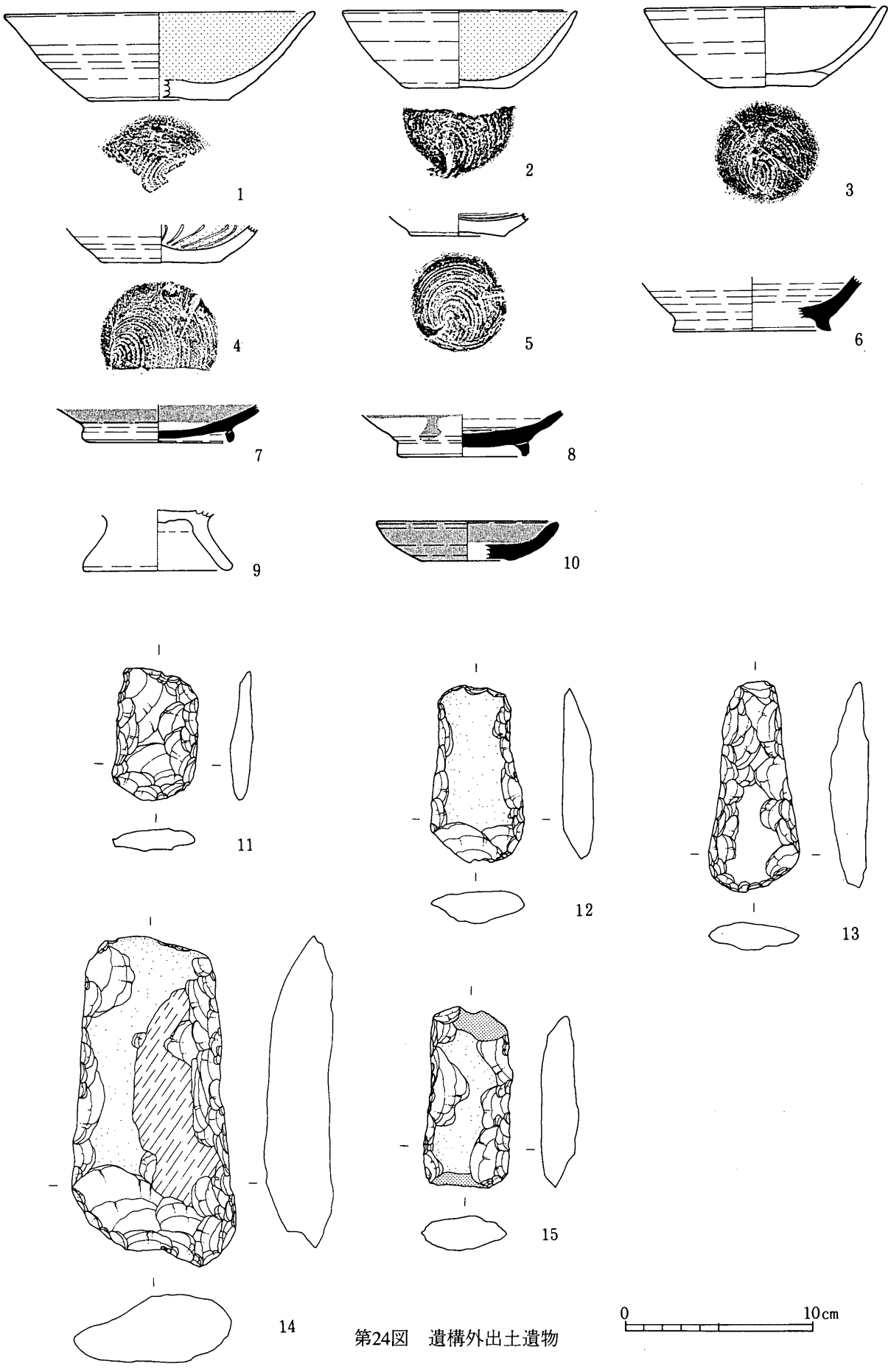

第21図　ＳＢ０９　出土遺物




第22図　ＳＢ０９　出土遺物



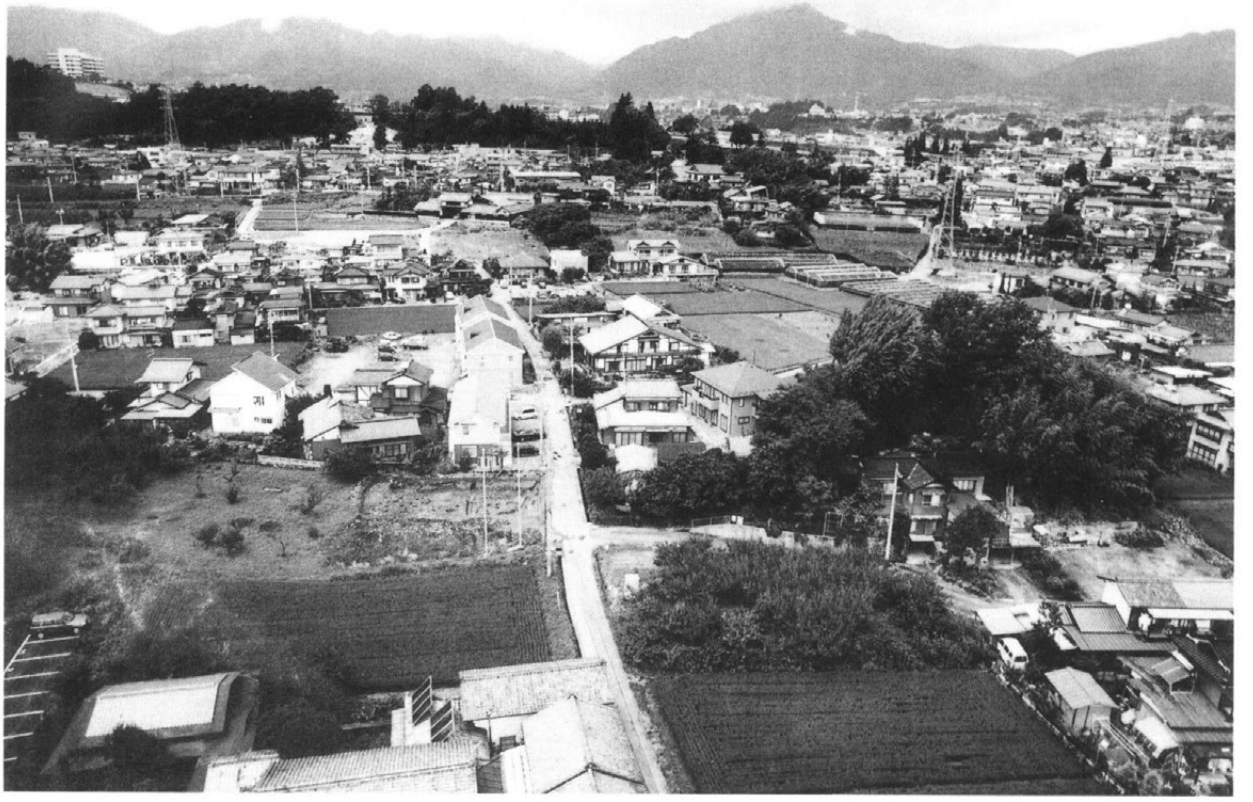

第23図　遺構外出土遺物




第24図　遺構外出土遺物

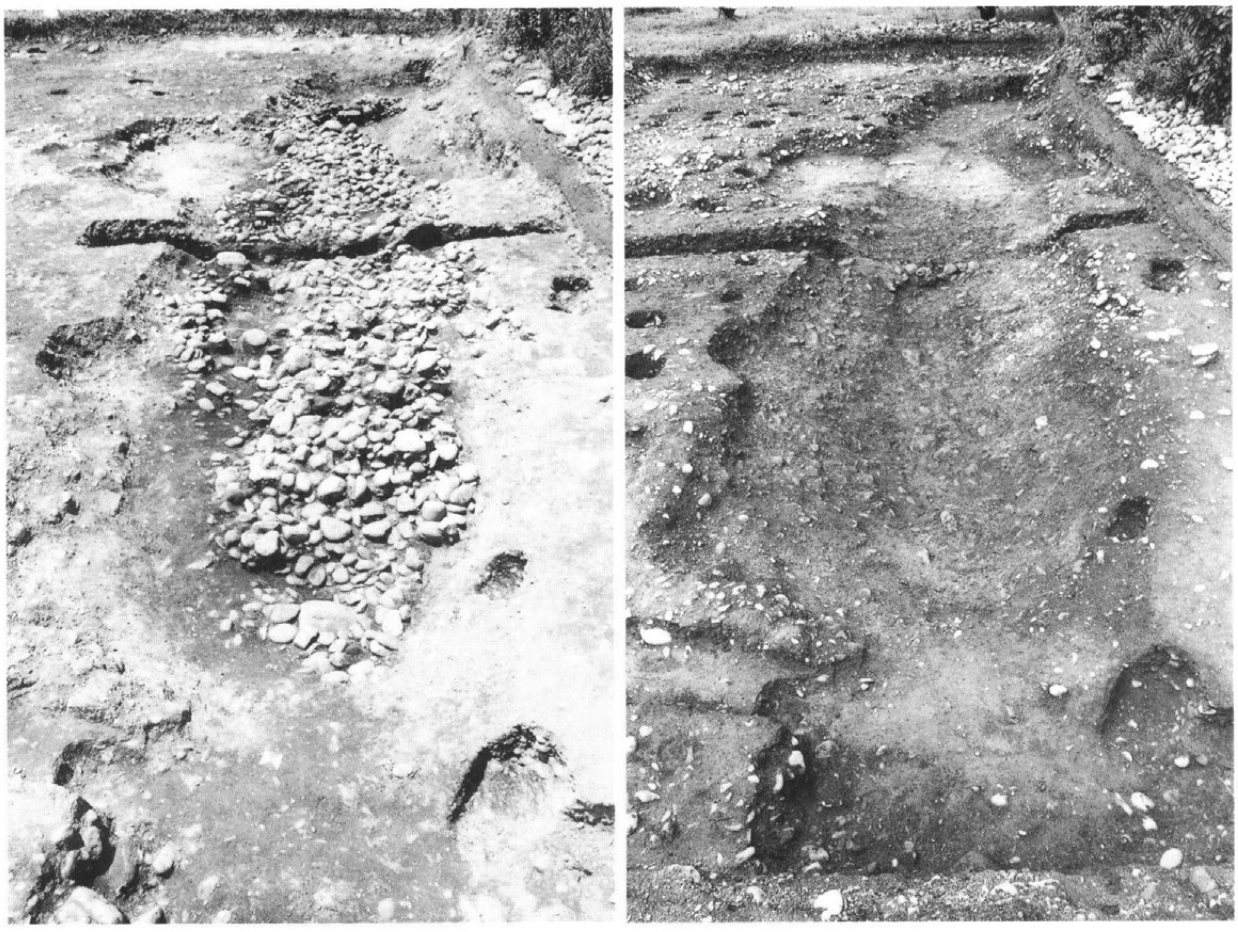
# 写　真　図　版

図 版 1



水城遺跡遠景

調査区全景



SMO1

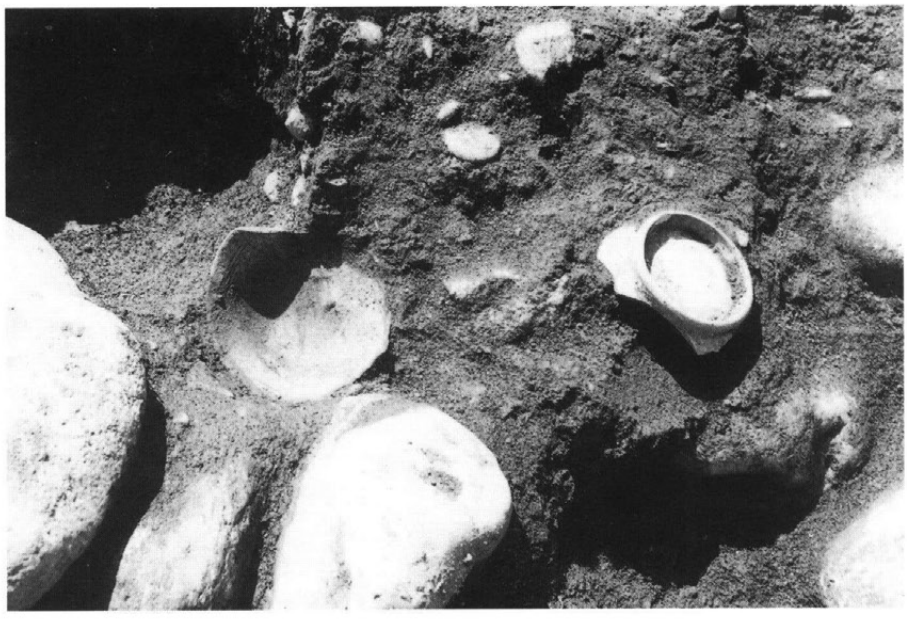
SB01

図 版 3

ＳＢ０１　遺物出土状態

ＳＢ０９

ＳＢ０９　カマド



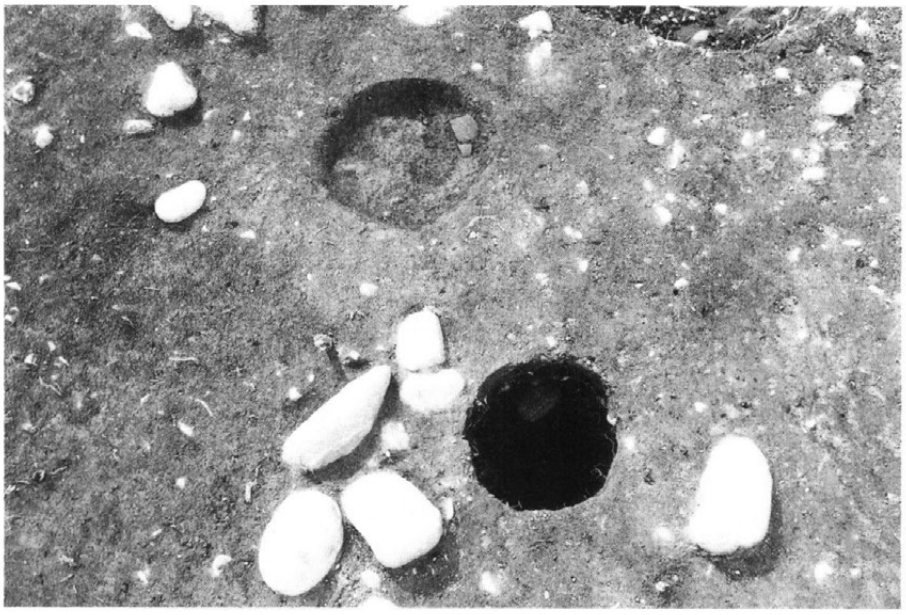
ＳＢ０９　遺物出土状態

ＳＢ０２

ＳＢ０５

図 版 5

SB07



SB08

SK01

SK02

SK03

調査風景

調査風景

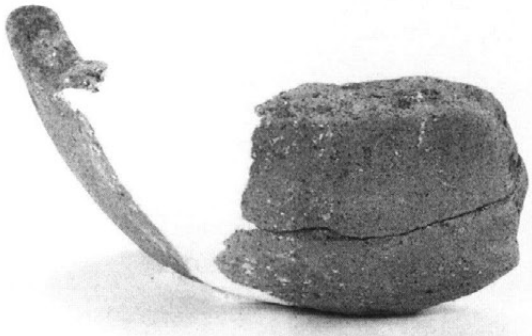
調査風景

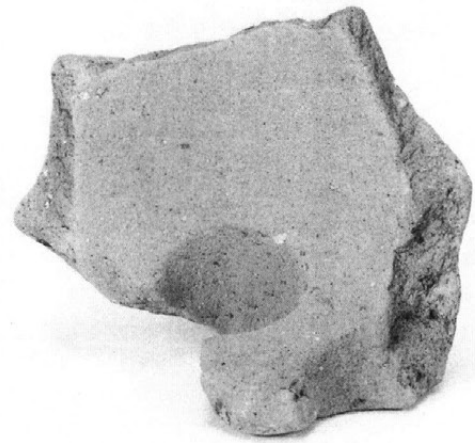
調査風景

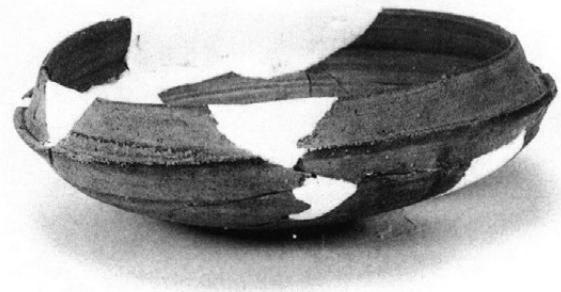
委託基準点測量作業

委託空中写真撮影

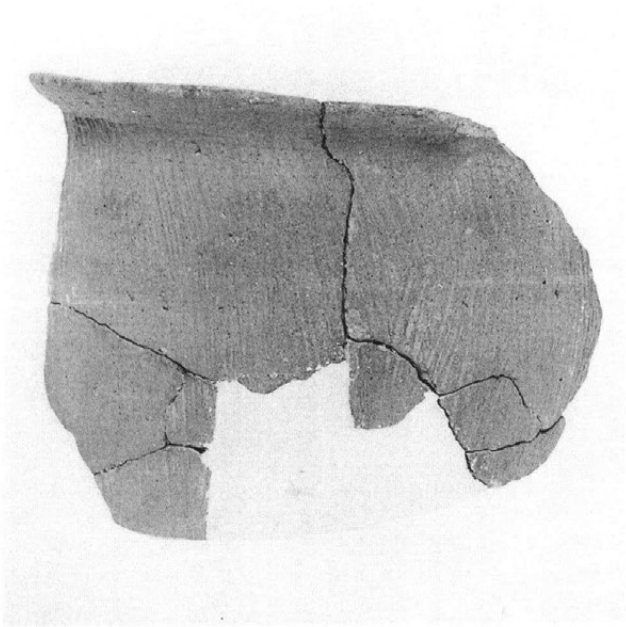
重機表土剥作業

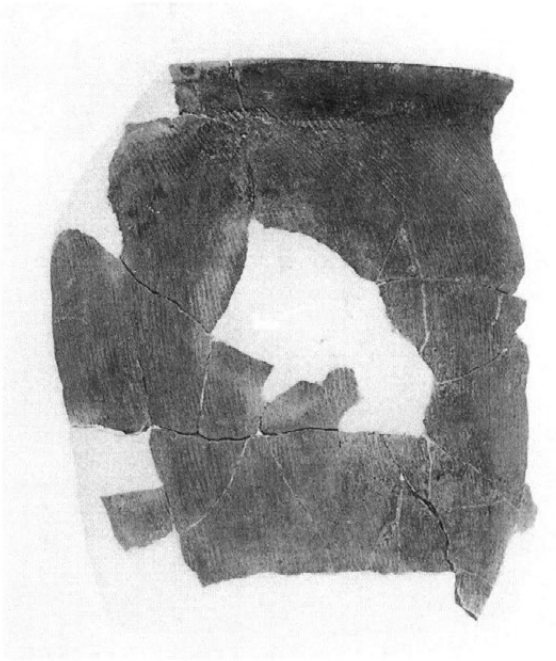


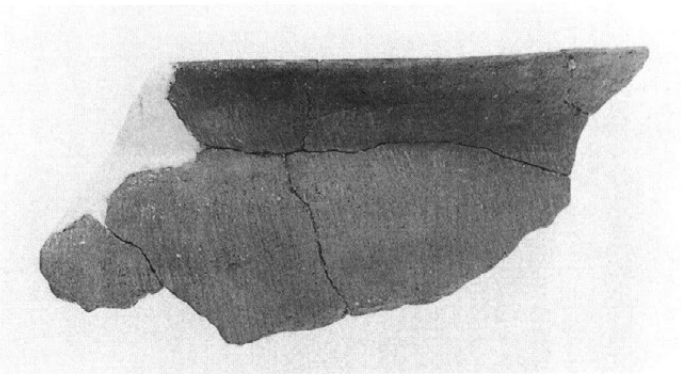


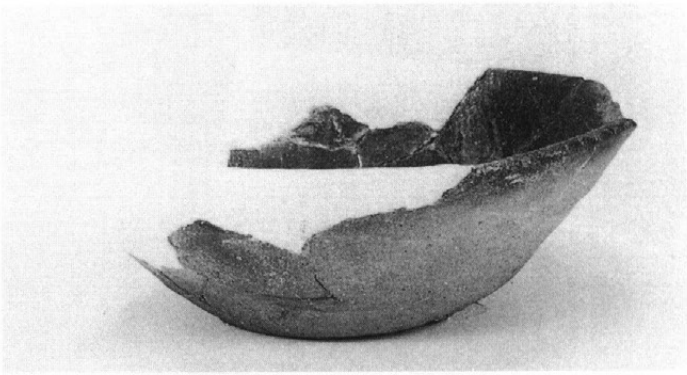


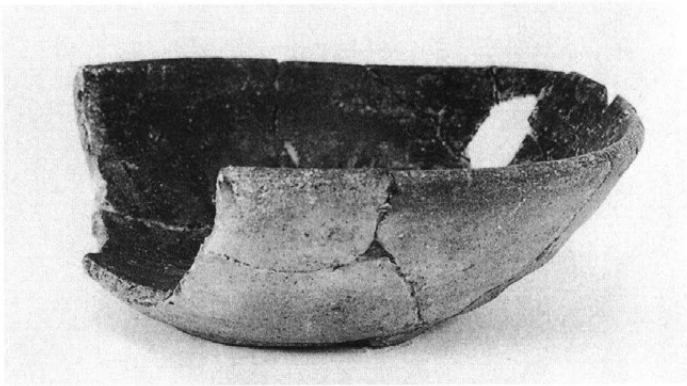
ＳＭ０１　出土遺物





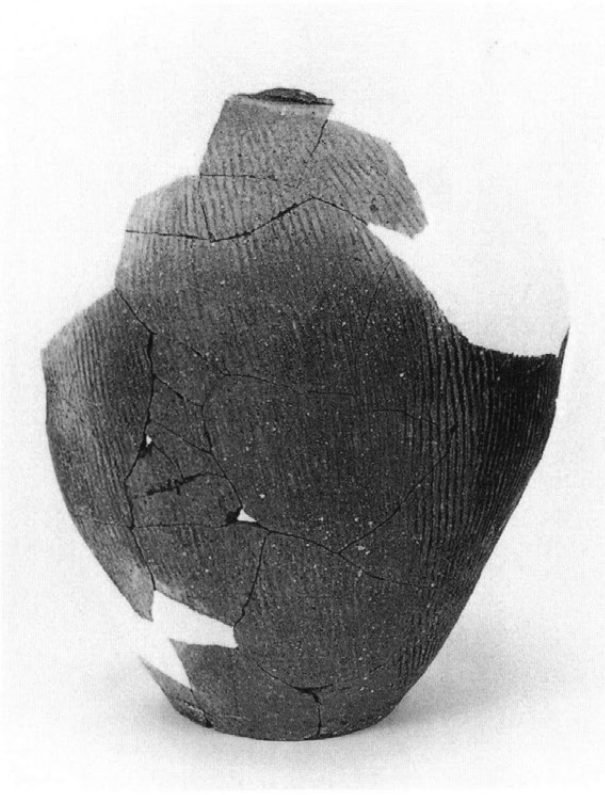


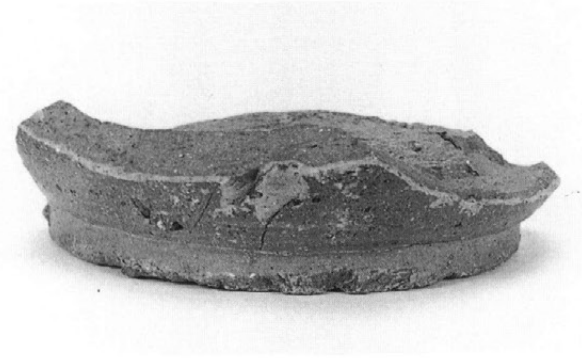


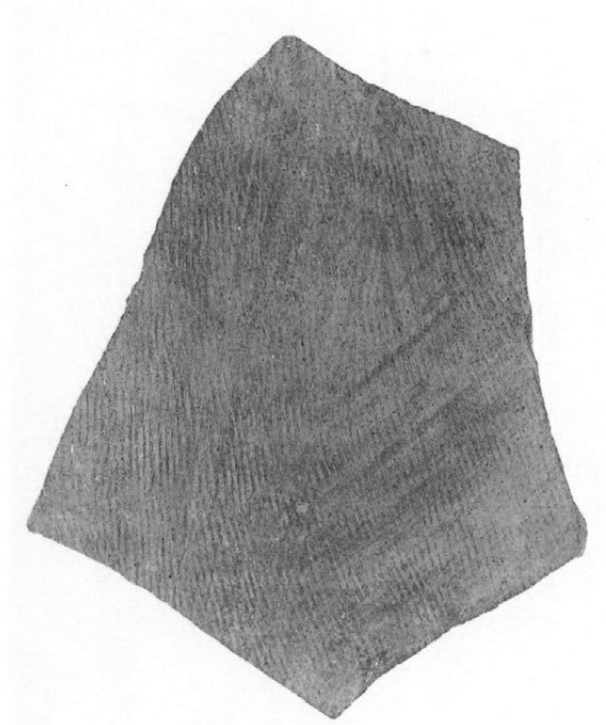


ＳＢ０１　出土遺物

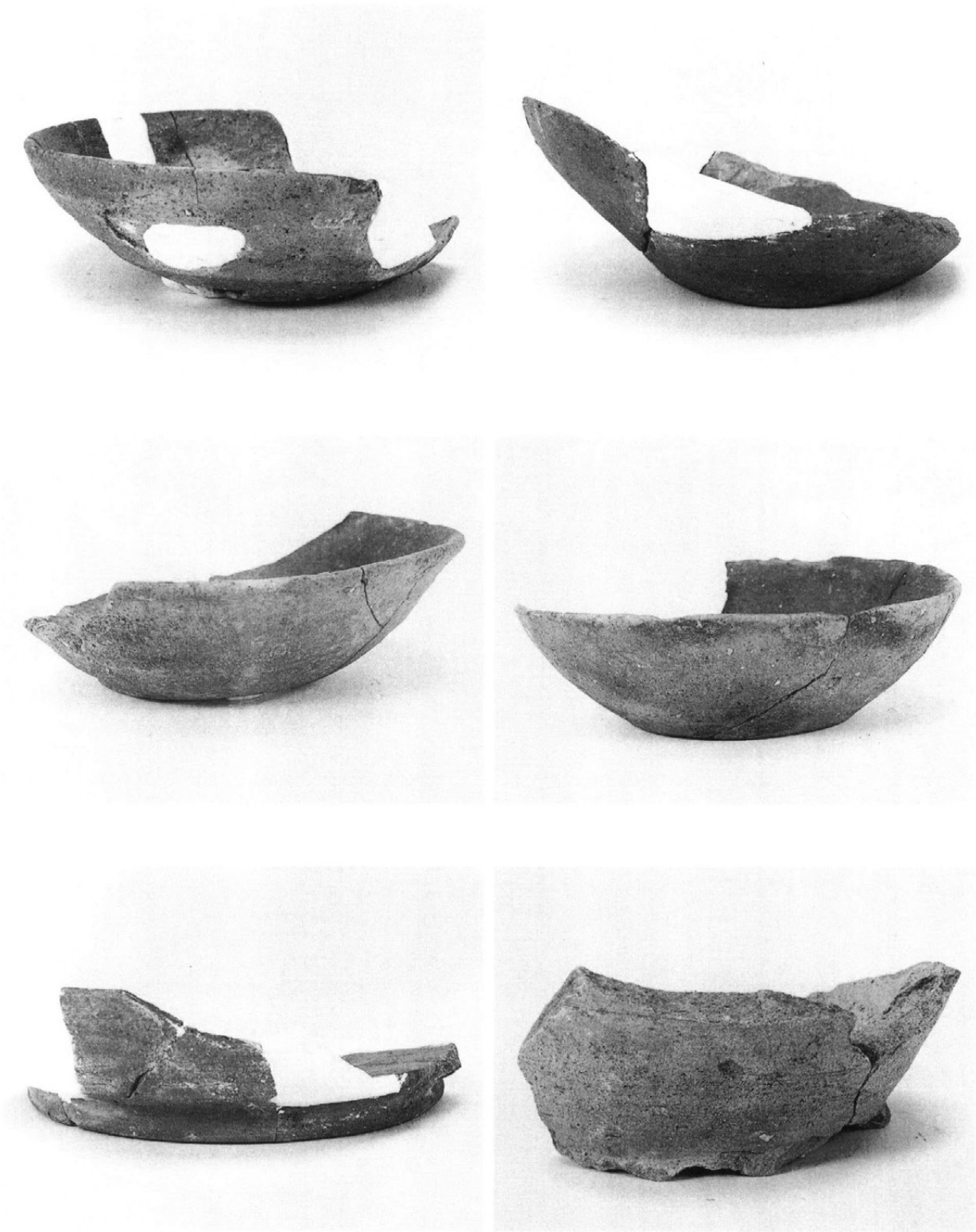
ＳＢ０９　出土遺物



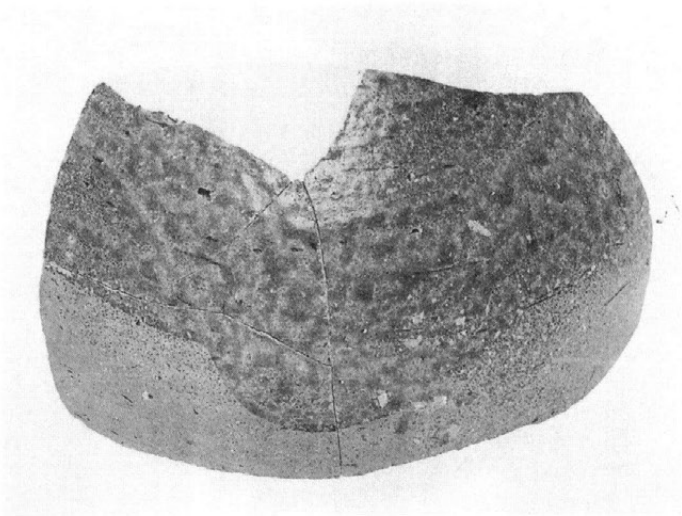


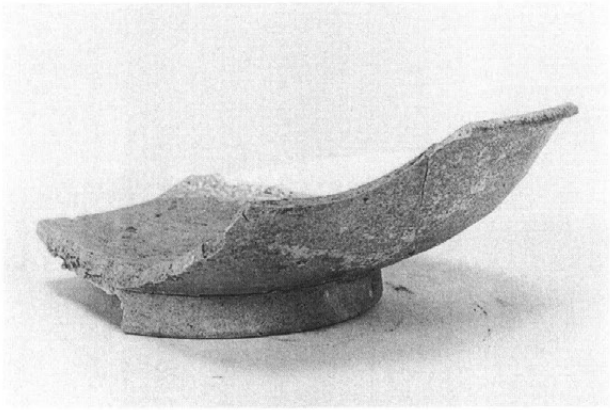


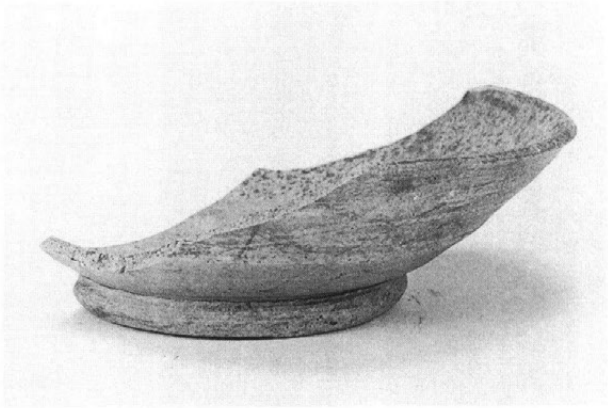
ＳＢ０９　出土遺物



ＳＢ０９　出土遺物

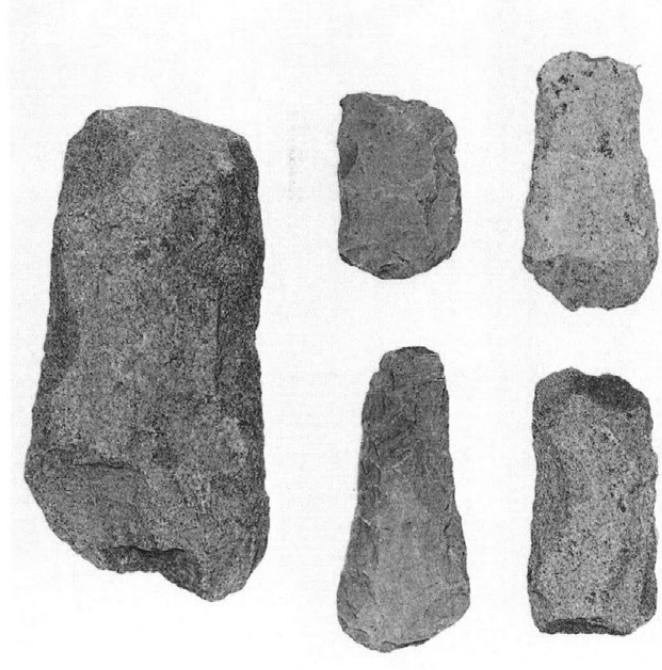






ＳＢ０９　出土遺物

遺構外
出土遺物



遺構外出土遺物

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | みさじろいせき |
| 書名 | 水城遺跡 |
| 副書名 | |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | |
| シリーズ番号 | |
| 編著者名 | 福澤好晃 |
| 編集機関 | 長野県飯田市教育委員会 |
| 所在地 | 〒395-0002 長野県飯田市上郷飯沼3145番地 ☎0265-53-4545 |
| 発行年月日 | 西暦1999年 3月31日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積<br>㎡ | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| みさじろいせき<br>水城遺跡 | いいだしまつお<br>飯田市松尾<br>3575番地 | 2053 | | 35°<br>29′<br>35″ | 137°<br>51′<br>05″ | 平成9年<br>6月4日～<br>平成9年<br>8月11日 | 400 ㎡ | コミュニティー消防センター |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 水城遺跡 | 墓域 | 古墳時代 | 墳丘墓 1基 | 古墳時代<br>土師・須恵器 | |
| | 集落址 | 平安時代 | 竪穴住居址 2軒 | 平安時代<br>土師・須恵器<br>灰釉陶器 | |
| | | 時期不明 | 竪穴住居址 7軒<br>竪穴状遺構 1基<br>溝址 1条<br>土抗 5基 | 中世 | |

水　城　遺　跡

1999年3月　発行

編集・発行　長野県飯田市教育委員会
長野県飯田市上郷飯沼3145
印　　刷　株式会社新葉社